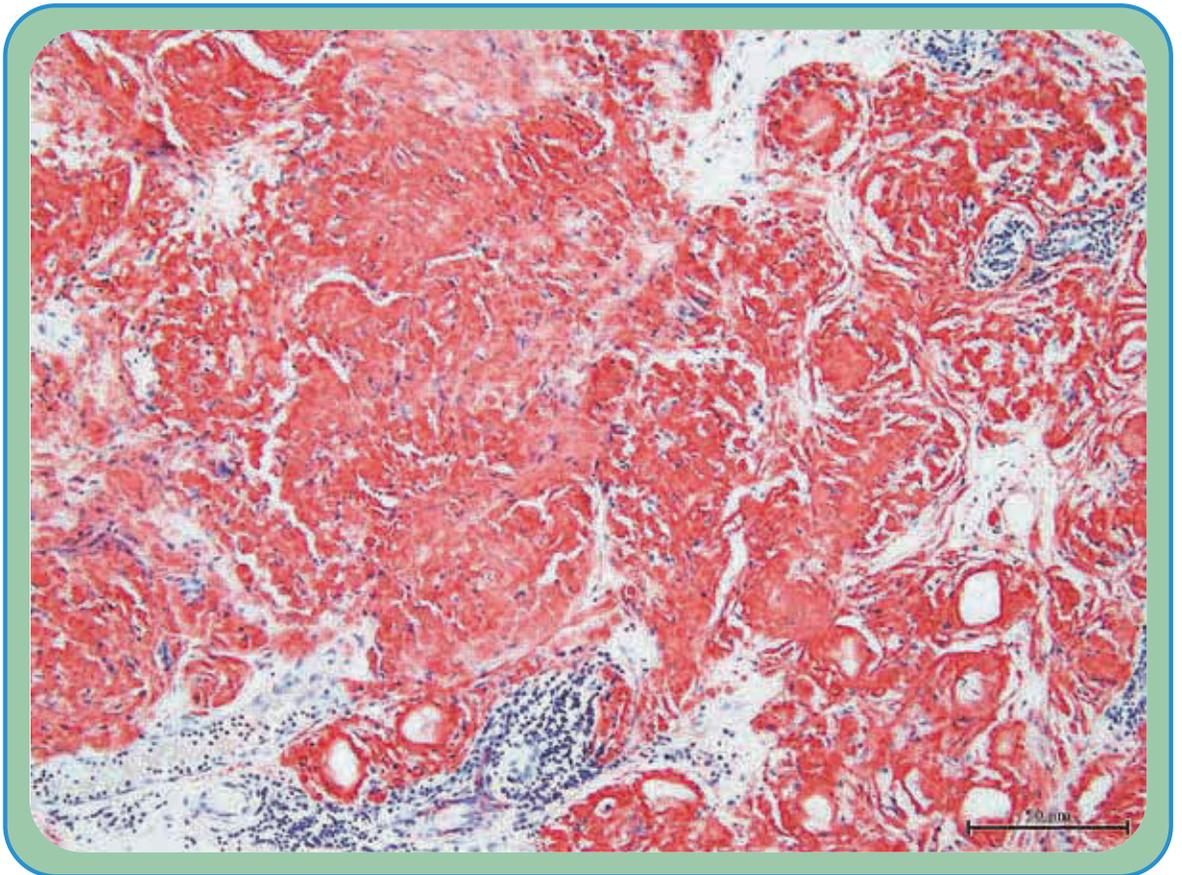


第27号

# さくらしま

2013



鹿児島大学大学院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

頸部軟部組織アミロイドーマの組織像。  
DFS 染色で赤橙色に染色されるアミロイドを認める。

# 目

# 次

巻頭言 .....	1
会長の挨拶 .....	3
I. 同門会通信 .....	4
II. 同門会員業績・学会発表 .....	8
III. 教室来訪者 .....	10
IV. 教室行事	
1. 共催の講演会 .....	11
2. 第23回日本頭頸部外科学会 .....	14
3. 第15回さくらじまフォーラム .....	15
4. 第12回「鼻の日」市民講座 .....	16
5. 第6回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座 ..	17
V. 同門会報告 .....	19
VI. 地域医療報告	
1. 学校保健（統計報告） .....	21
VII. 特殊外来通信	
1. 難聴・耳鳴・めまい外来 .....	24
VIII. 手術実績 .....	25
IX. 病理集計 .....	26
X. 各省庁諸研究 .....	27
XI. 業 績	
1. 原 著 .....	28
2. 総 説 .....	29
3. 国内学会発表 .....	31
4. 国際学会発表 .....	38
5. 学位論文要旨 .....	39
XII. 医局通信	
1. 新入局員紹介 .....	43
2. 医局人事 .....	43
3. 学会報告	
①第31回気道分泌研究会 .....	44
②第113回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	44

③第24回日本アレルギー学会春季臨床大会……………	45
④第36回日本頭頸部癌学会—第30回頭頸部手術手技研究会—…	46
⑤第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術集会…	46
⑥第27回九州連合地方部会学術講演会……………	47
⑦第74回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会…………	48
⑧第19回マクロライド新作用研究……………	48
⑨第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第36回日本医用エアロゾル研究会…	49
⑩第25回日本口腔・咽頭科学会総会・学術集会…………	49
⑪第51回日本鼻科学会総会・学術集会……………	50
⑫第22回日本耳科学会総会・学術総会……………	50
⑬第60回日本化学療法学会西日本支部総会・ 第55回日本感染症学会中日本地方会学術集会・ 第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会…	51
⑭第64回日本気管食道科学会総会・学術講演会…	51
⑮第31回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会…	52
⑯第25回日本喉頭科学会総会・学術講演会…………	52
4. 国際学会発表	
①The 14 <sup>th</sup> Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery……………	53
②24 <sup>th</sup> Congress of the European Rhinologic Society 31 <sup>th</sup> International Symposium of Infection and Allergy of the Nose…	54
③Seven Departments Joint Meeting of Otorhinolaryngology 2013…	55
5. 関連病院便り	
①国立病院機構鹿児島医療センターだより……………	56
②鹿児島市立病院便り……………	58
③藤元総合病院便り……………	59
④鹿児島生協病院便り……………	60
⑤天辰病院便り……………	61
XIII. 関連病院と診療日案内……………	62
XIV. 海外同門会名簿……………	65
XV. 自治医科大研修生……………	69
同門会会則……………	71
編集後記……………	73

## 巻 頭 言

黒 野 祐 一

政権が交代し、アベノミクスとやらによって日本の経済は活性化されつつあるようですが、医療環境への影響はいまだに感じることはできません。それどころか、大学に勤務する我々公務員の給与カットや退職金の減額などで、学内職員のモチベーションはむしろ低下しているような気がします。そのようなネガティブな心境にあったためか、先日、ソウルで開催された第20回世界耳鼻咽喉科学会に出席して、韓国の耳鼻咽喉科医そしてソウル市の溢れんばかりの活気に圧倒されました。

北朝鮮の不穏な動きによって懸念された参加者数の減少は全くどこ吹く風で、世界各国から5000名以上の参加があり、これまでにない盛大な学会でした。また、耳鼻咽喉科学全領域にわたって最新のかつ参加者の興味をそそる基礎そして臨床の話題がプログラムのテーマに掲げられ、連日、会場に多くの参加者が出席していました。学会も非常にうまく運営され、初日にスライド受付のコンピューターシステムのトラブルがあつたくらいで順調に進行していました。また、主催国ということもあり韓国の先生が多くの特別企画に名を連ねていましたが、講演の内容は世界トップレベルに匹敵するものばかりで、その素晴らしさに思わず溜息がでるほどでした。

市内の様相も急速に進化しつつあります。ソウル市を訪れるのは2年ぶりでしたが、この間の発展と変化には目を見張るものがありました。たとえば、私が宿泊したホテルの真向かいに真新しい地下鉄の駅があつたのですが、そのホテルに置いてある地図にさえその路線が印刷されていませんでした。工事が急速に進められるため、改訂が追いついていけないという、とても信じがたい事実でした。また、ふと見上げると、いたるところで高層ビルの建設が進められています。震災の影響とはいえ、日本が国内で内輪もめをしている間に隣国の韓国にいろいろな意味で追い越され、大きく水をあけられたような感覚にとらわれたのは、私一人ではないと思います。

その一方で、ガーナでは頸部リンパ節結核の患者が後を絶たず、結核の死亡率がエイズに次いで多いこと、ナイジェリアやインドでは今もなお多くのライ病患者が手術を目的に耳鼻咽喉科医を受診していることが報告されました。世耳の医療格差を目の当たりにするとともに、自分が今行っていることがいかに些細なことであるかを実感しました。

しかし、些細なこととはいえ、今の鹿児島における耳鼻咽喉科医療をさらに充実させることが私の大きな役目と認識し、今年は大堀君に米国へ留学してもらうことにしました。彼のリサーチマインドが大いに刺激され、いい仕事ができることを期待しています。



また、地村君が新教室員として入局しました。これらを契機にそして若いエネルギーを得て、韓国の先生に負けぬよう、教室員全員が大きく飛躍することを祈っています。

## 入局者に春の兆し

山 本 誠

年始めに寒い日が続いた為か、今年の桜の開花は例年より1週間以上早い開花となり、3月24日は満開の桜の中でゴルフを楽しみました。

今年の同門会並びに黒野教授就任15周年記念会には正月早々にもかかわらず、多数の先生方の御出席をいただき、黒野先生のすばらしい講演と伴に会員相互の親睦を深める有意義な会になったと思います。又、1月24日、25日に鹿大主催で開催された日本頭頸部外科学会も過去最高の演題数、参加者数となり、盛会に終えられたのも会員の方々の御協力の賜物と御礼申し上げます。黒野先生が就任されて15年が経過しました。最も多い時は50数名に達した医局員も現在は20名であり、教育、臨床、研究と多大な苦労があったものと思われませんが、そういう中で着実に実績を上げられ、昨年は日耳鼻学会理事に選出された事は、日耳鼻学会理事長の信任が厚い証しであり、鹿大では初めて、九州管内二人の理事の一人としての御活躍が期待されます。

国民の期待に答えられなかった民主党に替り自民党に政権が移りました。安倍首相のアベノミクスにより、円安と共に株価が上昇して日本経済に光明が見えてきましたが、これが実態経済の回復に繋がる事を願うばかりです。経済の停滞は医療費の抑制、ひいては受診抑制となり我々の経営を圧迫します。良質の医療を提供するためにも日本経済の復興は願望ですが、TPP参加による日本の医療保険制度の崩壊が心配です。ただ、いかなる環境においても良質の医療を提供することが我々の使命であり、安心して医療を行うためには有事の際の後方支援病院が大事です。2008年に馬越先生が入局されて以来入局者のなかった医局に2012年には井内先生が入局され、来年度には少なくとも2名の入局が見込まれます。これは鹿児島島の耳鼻科医療にとっても明るい兆しです。ところで昨年の医局忘年会のOBの参加者は私1人でした。ドクターだけでなく看護師、家族の方々を混じえて和気あいあいの楽しい会で、数人の先生方とは午前2時まで痛飲しましたが、OBの参加がないことに一抹の寂しさがありました。教室の主催する行事には同門会の先生方の積極的参加が望まれます。顔がみえてこそお互いの関係もうまくゆくものと思います。今年も教室や同門会主催の行事への積極的参加を宜しくお願い申し上げます。

## 勘の研究と東洋医学

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

世はまさにガイドラインブームである。経験の浅い医者でも、ガイドライン通りに診療を行えば、大きな取りこぼしはないというのがその究極の目的か、はたまた、決められたとおりに診療することで医療費を削減できると考えているのか。一方で、ここ数年勧められてきたレセプトの電算処理化の普及に伴い、「予想通り」と言うべきか「満を持して」と言うべきか、2012年4月からは、レセプトの突合審査が始まり、薬の使用説明書どおりに処方されていなければ査定されることになった。2012年は、医師が医師たるとべく頭を使うことを禁じられ、事務屋の軍門に下り、医師の裁量権というものが死んだ年として記憶される・・・かも知れない。

当院を開業してこの12月で18周年を迎えた。あつという間に「高校を卒業する年齢」に達してしまったという印象であるが、1994年の開業当時、携帯電話というものが漸く認知され初めた頃であった。急患対応の目的で、いち早く導入したが、固定電話の子機ほどの大きさと、価格も14-15万した。医局の先輩からは、ペイできるのかといぶかれた、そんな時代である。

そしてこの18年、世の中の一貫した流れは、合理化、デジタル化、無思考化であった。先日、ある報道番組をみていたら、出演していたコメンテーターが、「人は危機に瀕しない限り頭を使いたくない方向へ進化（退化？）していくのだ」というようなことを話していた。「一方、動物たちは、生命を維持するために、常に外敵と闘い、如何にして餌を得るかを考えている、今こそ人類は、そういう意味での獣化が必要なのではないか」というのだ。

マニュアルを作って、そのとおりに対処させるという発想は、いわゆる外食産業型発想法である。お客様が来ると、決められたとおりの挨拶と質問を繰り返し、決められた通りに注文を取り、常連さんに対しても毎度毎度同じような言葉を投げかける。メニューに無い注文の仕方をすると、途端にどうしたら良いか分からなくなってしまう。各種の診療ガイドラインを作るのにどれだけの苦労があるかも知っているので、決して同レベルで話はできないが、根本的な思想は同じである。「如何に頭を使わずにすませるか？」ということである。その結果として、考える力を失った人々が町にあふれ、世界に冠たる優秀な国だったはずの我が国は凋落した。

「勘の研究」は昭和8年に、黒田亮が著した我が国心理学の古典といわれる名著である。かの打撃の神様と呼ばれた川上哲治も愛読したと言われる。文体は、昭和初期と言

うこともあって、難解で、聞いたこともない難しい言葉が並ぶ。心理学に深い知識のない私にはとても理解するというレベルの内容ではないが、そこには、ガイドラインに沿っていたのではとうてい到達しようもない世界が描かれている。

その中の第9章、「剣法の極意」の一節から、引用してみる。柳生但馬の守宗矩のためにその師であり、禅僧でもあった沢庵が記した語録「不動智神妙録」から抄録して、不動智について考察しているのだが、「不動とは動かずという文字にて候。智は智恵の智にて候。

(中略)しかれば不動明王と申すも、人の一心の動かぬところを申し候。我が身を動転せぬことにて候。動転せぬとは、物事に留まらぬことにて候。物一目見てその心を留めぬを不動と申し候。なぜなれば物に心が留まり候へば、いろいろの分別が胸に候間、胸のうちにいろいろに動き候。留まれば留まる心は動いても動かぬにて候。云々と引用して、この不動智の境地すなわち修練の結果到達したる無心無念の位こそ著者のいわゆる最高次の勘であって、それは決して西洋心理学による部分と区別された「全体」とその内容を同じくする物ではない。と記している。

医学医療の世界でも、部分や成分を研究して病態に迫る西洋医学と全体を見て病態を把握しようとする東洋医学があり、我が日本では、東洋医学を使える国の中で、唯一、西洋医学的に医師免許を取得した医師が、保険診療として漢方方剤を処方できる。マニュアル化されガイドライン化されていく医療は、大多数の患者には有益であるが、ガイドラインから外れた患者さんが路頭に迷いかねない。その隙間を埋めてくれるのが漢方の妙味ではないかと思う。紀元前後から脈々と続く中国医学に基づいた物の考え方が、いまなお微塵の翳りもないままで患者の苦悩を取り除いてくれる事実は驚嘆に値する。先人の究極までにとぎすまされた観察眼とすさまじいまでの研究熱心さに改めて敬意を表するものである。これこそまた、最高次の勘を習得した者のなせる技なのではないかと思う。

私もまた漢方医学にはまってしまった医師の1人である。医師に成り立ての頃に、出先の病院で診た副鼻腔炎の患者さんとの出会いがきっかけであった。手術をしたものの、我が身の技術の未熟さもあって、症状が改善しない。困り果てて、ある漢方製剤をMRにすすめられるままに使ってみたところ、何とたった1週間でそれまで訴えていた不快な鼻症状がきれいさっぱり治ってしまったのである。そこから、私の漢方の勉強ははじまった。

以来、四半世紀がたつが、漢方医学の奥の深さはますます深く、裾野の広さはますます広く、荒野をさまよっている感覚であった。独学でやってきた者の限界であろうと考え、3年ほど前から一念発起、50の手習いではあったが、福岡の漢方専門クリニックへ勉強に通い始めた。以来、月に一度、新幹線を乗り継いで、出掛けていき、外来診療に

付き添わせていただいた。脈を取らせてもらい、おなかを触らせていただき、鍼を打つところを見せてもらいなどしていろいろなことを教わった。研修3年で、東洋医学会専門医試験の受験資格が得られる。この年で、資格試験を受けるかどうか迷っていてもいたが、幸い漢方のエキスパートの友人たちにも恵まれ、区切りとして試験を受けようということになった。

そこからは、ふだんの臨床と違う受験勉強が始まった。電話帳ぐらいの過去問題集を取り寄せ、とりあえずやってみるが、臨床問題は別にして、殆ど解けない。それもそのはずで、各生薬毎の成分や薬効・薬理にはじまり、古典の条文、方剤毎の出典などなど、いわゆる知識として知っておかなければならないことを知らないのである。教科書や古典を読んで覚えようとするが、錆び付いた頭脳はそれを拒否、今さっき読んだこともまともに覚えていないというありさまで、むしろ、二十年ほど前によんだ傷寒論の一部の条文は覚えているといった、新しい知識の固定ができなくなっている自分に気付いた。さてどうしたものか？

困り果てたあげく大学受験の頃を思い出して、カード戦法に切り替えた。さび付いた脳みそも反復すれば少しは記憶に留めてくれるだろうという魂胆である。朝夕の徒歩通勤を増やし、その15分に前夜に書いたカードをめくる。出掛けるときの新幹線の中でも、飛行機のなかでも、はたまたトイレのなかでも、「ああそういえば、今は故人となった高校三年の時の担任が『寸暇を惜しめ』と教えてくださったなあ」などと感慨にふけりながら、ひたすら反復練習。

その間に、一次試験の日程が迫ってくる。一次試験は、書類審査である。自分で処方して効果を認めた50例を簡単なレポートにして、更にそのうちの10症例については詳細な臨床報告を記載する。どの専門医試験も同じようなものであろう。研修機関の施設長の認印をもらって、これまでの学会出席や発表、論文などの取得点数を同封して何とか書類を提出する。一月ほどして無事に書類審査合格の通知が届き、二次試験の案内が同封されている。二次試験は、勤労感謝の日である。

品川プリンスホテルに前日入りして、当日の朝、折からの小雨の中、タクシーで受験会場の昭和大学に向かう。筆記試験は正午からきっちり1時間であった。大学の講義室の長机の端々に1人ずつ座らされて、慣れないマークシートに取り組む。おそらく医師国家試験以来の緊張感である。30分経過するまでは退場はできませんという試験官の説明は私には不要だった。時間目一杯使って、漸く見直せた。途中退出する奴がいるので、「すごいなあ」と思いつつ。次は口頭試問である。20分ほどの休憩の後、受験場から、8人ずつ呼び出されて、係員に従って、別棟へ移動していく。個室が8つ並んだウナギの寝床のような通路に導かれ、1人ずつ部屋へ入らされる。中には、2名の試験官が待っておられ、10分間の試問が行われる。最後の方の質問にややたじたじとなったが

おおむね手応えは良好か？外に出ると、何かほっとして力が抜けた。ここ最近味わえなかった開放感のようなものを覚えた。

鹿児島県東洋医学会の重鎮の納先生が以前このようなお話をされたことがある。「CT や MRI など診断の技術は進歩したが、『医師たる者、徒手空拳で医師足るべし』と」。先端技術や西洋医学的な診断は、当然のことながら、まずは必要である。そのような中で、患者さんの話をよく聞き、脈を診て、腹を触って、診断を下すという日本漢方の手法は、ガイドライン化していく現代医療の中にあって決して廃れさせてはならないすばらしい診療体系である。ますます発展し、見捨てない医療の手段として更に見直されて行くことを期待している。

追記) 年末に、レポートを書いている最中に、書留が届いた。中には合格通知と振り込み用紙が同封されていた。

参考文献) 黒田 亮：勤の研究. 講談社文庫. 1980年.

## せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

## 論文

内菌明裕：耳鏡所見で異常のない耳痛に対する漢方薬の効果，痛みと漢方 22: 16-23, 2012.

内菌明裕，山中 昇：高感度肺炎球菌抗原検出キットおよびインフルエンザ菌抗原検出キットの使用成績，日耳鼻感染症研究会誌 30: 31-36, 2012.

## 学会発表・報告・講演・その他

平成23年度第3回日本東洋医学会福岡県部会 平成24年3月4日（福岡）

「耳鼻咽喉科における漢方の有用性」

内菌明裕

第63回日本東洋医学会総会 サテライトシンポジウム 平成24年6月29日（京都）

「こんな時には漢方を」

内菌明裕

第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会 シンポジウム 平成24年9月7日（山口）

「抗菌薬の適正使用とは？」

内菌明裕

第28回耳鼻咽喉科漢方研究会 平成24年10月27日（東京）

「気虚に関する耳鼻咽喉科的一考察」

内菌明裕

江川耳鼻咽喉科 江川 雅彦

**発表**

第1回国際アロマセラピー会議 平成24年8月31日（京都）

The utility of hyperthermia using tea tree oil for allergic rhinitis in pregnant and lactating women

第51回日本鼻科学会総会 平成24年9月28日（幕張）

妊婦・授乳婦の鼻アレルギーに対するティートリー蒸気吸入(アロマセラピー)の有用性

**著書・論文**

妊婦・授乳婦の鼻アレルギーに対する，ティートリーを用いた蒸気吸入の有用性

日本アロマセラピー学会誌. 11 (1): 31~36. 2012.

鼻アレルギー患者を対象に，温熱療法単独群と，ティートリー精油（主成分である Terpinen-4-ol に免疫増強作用あり）を温熱療法に加えたアロマセラピー群との両群を比較検討し，治療効果に有意差を認めたとの内容です。

内服が禁忌とされている妊婦・授乳婦を中心に，今後もアロマセラピーを補完代替療法の一環として啓蒙していきたいと考えています。

## Ⅲ. 教室来訪者

教室来訪者（平成24年4月～平成25年3月）

7月 島根大学医学部耳鼻咽喉科教授 川内 秀之

7月 熊本大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 湯本 英二

7月 九州大学大学院医学部耳鼻咽喉科教授 小宗 静男

### 1. 共催の講演会

1. 第84回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成24年4月26日
  - 特別講演1：「滲出性中耳炎－逆流性疾患の観点から－」
    - 名古屋大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科学
    - 准教授 曾根 三千彦 先生
  - 特別講演2：「北里大学病院における頭頸部癌診療 二つのトピック」
    - 北里大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授 岡本 牧人 先生
  
2. 第18回南九州上気道感染症臨床懇話会 平成24年5月24日
  - 特別講演：「呼吸器感染症におけるマクロライドの役割～MICで語れない感染症治療～」
    - 産業医科大学医学部 呼吸器内科学 教授 迎 寛 先生
  - 一般演題：「当院における小児急性中耳炎の動向」
    - 牛飼 雅人 先生（うしかい耳鼻咽喉科クリニック 院長）
    - 「肺炎球菌抗原検出キットの使用経験」
      - 内菌 明裕 先生（せんだい耳鼻咽喉科 院長）
    - 「小児科領域における肺炎球菌ワクチンのインパクト」
      - 南 武嗣 先生（みなみクリニック理事長）
  
3. 第37回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成24年6月9日
  - 特別講演：「軟骨伝導聴覚－発見から原理，臨床応用，産業応用まで－」
    - 奈良県立医科大学耳鼻咽喉科 教授 細井 裕司 先生
  - 一般演題：「経皮免疫による粘膜免疫応答の誘導」
    - 永野 広海 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
    - 「側頭部に発生したAVMの一例」
      - 井内 寛之 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
    - 「鼻中隔後端に発生した癌肉腫症例」
      - 西元 謙吾 先生（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）
    - 「当科における鼻腔内反性乳頭腫の検討」
      - 宮下 圭一 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
    - 「コンビームCTによる蝸牛窓の評価」
      - 中島 崇博 先生（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）

4. 第11回鹿児島めまい研究会 平成24年7月19日 (鹿児島市)  
一般演題：「腫瘍背側を顔面神経が走行していた聴神経腫瘍の1例」  
時村 洋 先生 (鹿児島大学大学院 脳神経外科)  
「リラグゼーションが奏功しためまい患者の1例」  
上原 美穂 先生 (鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科)  
「進行性難聴とめまいを呈した前庭水管拡大症の1例」  
宮之原 郁代 先生 (鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)  
特別講演：「開業医としての脳神経外科医の役割～頭痛, めまいを中心として～」  
上川 秀士 先生 (上川クリニック 理事長 昭和大学医学部客員教授)
5. 第85回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成24年7月26日  
特別講演1：「慢性中耳炎の治療の問題点とその対応－伝音難聴から感音難聴まで－」  
東邦大学医学部耳鼻咽喉科 (佐倉) 教授 鈴木 光也 先生  
特別講演2：「耳科手術のパラダイムシフト－ Endoscopic Ear Surgery －」  
山形大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 欠畑 誠治 先生
6. 第86回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成24年8月23日  
特別講演1：「耳鼻咽喉科医に知って欲しい性感染症 ～淋菌・クラミジアの咽頭感染の臨床～」  
東京女子医科大学東医療センター 耳鼻咽喉科  
准教授 余田 敬子 先生  
特別講演2：「高齢者の頭頸部癌治療－埼玉医大の経験－」  
埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科  
教授 菅澤 正 先生
7. 第87回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成24年9月20日  
特別講演1：「好酸球性鼻副鼻腔炎・アレルギー性真菌性鼻副鼻腔炎の診断と治療戦略」  
東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科 講師 松脇 由典 先生  
特別講演2：「耳管開放症の新しい考え方」  
東北大学大学院医科系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野  
教授 小林 俊光 先生
8. 第88回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成24年10月17日  
特別講演1：「肺炎球菌・インフルエンザ菌の病原性とワクチンによる予防」  
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野

教授 西 順一郎 先生

特別講演 2 : 「One airway, one disease からみた上気道好酸球性炎症の病態と治療」  
東京女子医科大学 耳鼻咽喉科 臨床教授 野中 学 先生

9. 第14回上気道アレルギー疾患を考える会 平成24年11月15日

ミニパネルディスカッション ～アレルギー疾患の薬治療～

「虚弱体質型・アレルギー性鼻炎児童に食育及び漢方が有効だった症例  
－耳鼻咽喉科の立場から－」

上野 員義先生（うへの耳鼻咽喉科クリニック 院長）

「抗ヒスタミン薬の使い方 －皮膚科の立場から－」

島田 辰彦 先生（島田ひふ科 院長）

特別講演 : 「喘息を含めた小児の上下気道疾患への対応」

佐賀大学医学部小児科学 教授 濱崎 雄平 先生

10. 第89回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成25年1月31日

特別講演 1 : 「花粉症・鼻アレルギーと難治性副鼻腔炎」

京都第二赤十字病院 耳鼻咽喉科 部長 出島 健司 先生

特別講演 2 : 「数字から見る耳鼻咽喉科」

金沢医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

特任教授 鈴鹿 有子 先生

11. 第90回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成25年2月28日

特別講演 1 : 「抗ヒスタミン薬の脳内移行による影響について」

東北大学大学院医学系研究科 機能薬理学分野

教授 谷内 一彦 先生

特別講演 2 : 「NBI 観察による頭頸部がんの診断と治療」

東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科 教授 加藤 孝邦 先生

12. 第91回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成25年3月21日

特別講演 1 : 「好酸球性副鼻腔炎の基礎と臨床」

東京大学医学部耳鼻咽喉科 講師 近藤 健二 先生

特別講演 2 : 「鼻炎の治療～鼻アレルギーを中心に～」

日本赤十字社和歌山医療センター 耳鼻咽喉科部

副部長 池田 浩己 先生

## 2. 第23回日本頭頸部外科学会

第23回日本頭頸部外科学会は、平成25年1月24日～25日に当科主催で行われた。本学会で私は初めての事務局長という大役を授かり、運営にかかわった。頭頸部癌専門医制度が始まってから当学会は、急速に会員数が増加しており、それに伴い参加者も増加してきていた。実際、本学会では、一般演題363題という過去最大の一般演題数となり、学会自体も盛況に終わることができた。学会では、西元先生と私がシンポジストとして発表を行った。シンポジウムでは、近年の高齢化社会に対して、「高齢化社会における頭頸部癌手術お適応と留意点」をテーマに取り上げ、また近年経口的に低侵襲に咽頭腫瘍切除が行われることに対して、「経口的手術の現状と未来」と題して、経口切除術の未来についても議論を行った。主催大学として鹿児島大学をアピールできたと思われる。学会運営には、医局員をはじめ多くの方に援助をいただきこの場をかりて感謝申し上げます。



### 3. 第15回さくらじまフォーラム

本フォーラムは、下記内容で開催された。

日 時：平成24年12月13日（木） 19：00～

場 所：鹿児島サンロイヤルホテル1F「エトワール」

#### 講演内容

総合司会 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 講師 大堀純一郎 先生

#### 【症例検討】

司会 鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 医長 西元謙吾 先生

#### 1. 「難治性咽頭潰瘍から全身性疾患が疑われた一例」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 井内寛之 先生

#### 2. 「切開排膿に難渋した扁桃周囲膿瘍の一例」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 地村友宏 先生 宮下圭一 先生

#### 3. 「甲状腺周囲に膿瘍形成をきたした一例」

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 牧瀬高穂 先生

#### 【How I do it?】

テーマ：急性喉頭蓋炎

司会 鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 講師 吉福孝介 先生

#### 【特別講演】 20：30～21：00

『アレルギー性鼻炎の診断におけるピットフォール』

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 黒野祐一 先生

今年、症例検討と、How I do it では急性喉頭蓋炎を取り上げた。特別講演では、黒野教授にアレルギー性鼻炎の診断のピットフォールについて講演いただいた。急性喉頭蓋炎は、耳鼻咽喉科の救急疾患としては頻度も多く、窒息死という危険性を含むため、その診断と病診連携について活発な論議が交わされた。また、日常よく診療するアレルギー性鼻炎に対して、その診断は、本当に正しいですか？と問いかける内容の特別講演は、我々の日常診療をもう一度見直す良い機会になったと考えらえた。

## 4. 第12回「鼻の日」市民講座

鼻の日（8月7日，日本耳鼻咽喉科学会）にちなんで，本会は以下の内容で開催された。

日 時：平成24年8月5日（日） 午後2時～3時10分

場 所：鹿児島市勤労者交流センター 第1会議室

### 講演内容

司会 鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 大堀純一郎 先生

#### ①鼻の働きとしくみ

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 大堀純一郎 先生

#### ②副鼻腔炎の話

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 原田みずえ 先生

#### ③においの話

鹿児島大学病院耳鼻咽喉科 川島雅樹 先生

今回は，鼻の解剖や病態を理解していただくために働きとしくみを，疾患では副鼻腔炎と嗅覚障害を取り上げた。約50名の一般市民の参加があり，質疑も活発であった。アンケートではアレルギー性鼻炎に関する関心が強く，今後の講演では，アレルギー性鼻炎や，花粉症，舌下免疫療法についても次回は取り上げるべきかと思われた。

## 5. 第6回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座

日時：2013年3月3日（日）13：00－14：30

場所：鹿児島県医師会館

宮之原 郁 代

耳の日ならびにアレルギー週間公開講座は、おかげさまで好評を頂き、今年で第6回を迎えました。例年、身近で関心の高い話題を選んで講演を企画しており、本年は以下の内容で行いました。本講座は、市民の皆さんに健康で楽しく生活してもらいたい、という目的で行なっています。したがって、できるだけわかりやすく医学の知識を、お話しすることが大切ですが、これが毎回ながら、なかなか難しく、講演する側も工夫や勉強が必要です。講座終了後に、例年同様、今回の講座についてのアンケート調査を行いました。参加者は47名で、アンケート回収率は、87%（40名）でした。年齢性別構成では、70代にピークを認め（図1）、内容としては、補聴器とアレルギー性鼻炎についての情報をより求めていることが伺えました。講演は比較的わかりやすかったと評定を頂き、ほっとしました。初めて参加した方と、3回以上参加している方が、ほぼ同数で多かったので、「鼻の日」と提携してポイント制にして、ポイントが貯まると何か記念品を差し上げたりすることができれば、また受講しようと思うきっかけになるかもしれません。医学も進歩しますし、なかなかわかりにくい医学の知識でもありますので、一度だけでなく、折々に足を運んで講演を聴いて頂くことが大切だと思います。今後も引き続き、耳疾患、アレルギー疾患に関する啓発活動に努めていきたいと思っています。当日は、（中）日本補聴器販売店協会のご協力、赤外線補聴システムを準備しました。ご協力頂きました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

（人）

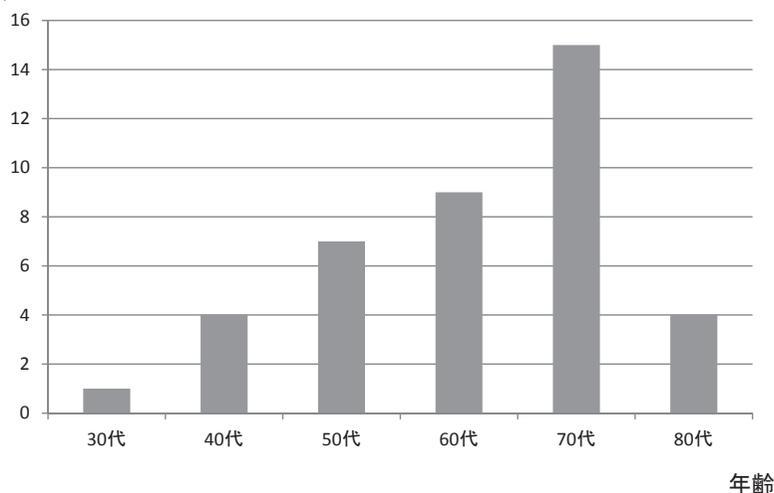


図1 年齢分布

**講演内容**

- 1) 補聴器を上手に使うためのとっておきの知識  
川島雅樹（鹿児島大学耳鼻咽喉科）
  - 2) 聞こえが甦る人工内耳の最新情報  
大堀純一郎（鹿児島大学耳鼻咽喉科）
- ～質問コーナー～
- 3) 聞いて得するアレルギー性鼻炎・花粉症の医療最前線  
宮之原郁代（鹿児島大学耳鼻咽喉科）
- ～質問コーナー～

**アンケート結果**

1. どのようにして、今回の講座について知りましたか。※重複回答あり  
新聞 8名 病院内のポスター 1名 リビング 5名  
案内状 25名 友人の紹介 3名
2. どの講演を目的に受講しましたか。※重複回答あり  
補聴器 22名 人工内耳 8名 アレルギー性鼻炎・花粉症 25名
3. 講演を聴こうと思ったきっかけは？ ※重複回答あり  
アレルギーを持っているから 14名 聞こえに不自由を感じているから 11名  
自分の健康管理 15名 家族の病気を心配して 4名  
その他（2ヶ月前から耳鼻咽喉科に勤務しているため）
4. 講演内容はいかがでしたか。  
わかりやすかった 27名 ややわかりにくい 4名 無回答 9名
5. 講演時間、日程についてお聞きします。  
講演時間：もっと長く 4名 ちょうどよい 26名 無回答 10名  
日 程：土曜午前が良い 4名 土曜午後が良い 11名  
日曜午前が良い 7名 日曜午後が良い 13名  
いつでもよい 2名
6. これまでに参加されたことはありますか？  
はじめて 16名 2回目 9名 3回目以上 15名

平成25年1月5日、城山観光ホテルにて「鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会総会ならびに学術講演会」が開催された。同門会総会の参加者は、同門会会員総数110名中36名（委任状38名）で、山本 誠会長の司会で進められた。総会では、本誌「さくらじま」を同門会ホームページ上でPDFとして閲覧、ダウンロードできるようすることが承認された。また、平成25年度予算案、事業予定について報告され、承認された。

今回の同門会学術講演会の概要は以下のように開催された。本年度は黒野教授就任15周年記念もかねての開催であり、特別講演は黒野教授にご講演いただいた。

- 16時～17時 役員会
- 17時～18時 同門会総会および写真撮影
- 18時～19時 学術講演会 一般演題
- 19時～20時 学術講演会 特別講演
- 20時～ 新年会も兼ねた懇親会

### 一般演題（18:00～19:00）

座長 花牟禮 豊 先生（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）

1. 節外性形質細胞腫に合併した喉頭アミロイドーシス例  
馬越 瑞夫（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）
2. 帯状疱疹に中枢神経症状を合併した一例  
谷本洋一郎（天辰病院 耳鼻咽喉科）
3. ヒト中耳粘膜上皮における IL-8産生に対するマクロライドの効果  
原田みずえ（鹿児島大学大学院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

座長 松崎 勉 先生（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

4. 口腔底に発生した粘液型脂肪腫の一例  
林 多聞（鹿児島市立病院 耳鼻いんこう科）
5. 急性扁桃炎を契機に急性腎不全に至った IgA 腎症例  
積山 幸祐（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

特別講演 (19:00~20:00)

座長 山本 誠 先生 (同門会会長 山本耳鼻咽喉科 院長)

「上気道炎症と粘膜免疫」

鹿児島大学大学院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 黒野祐一 先生



鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成25年1月5日 於 城山観光ホテル

## 1. 学校保健（統計報告）

平成24年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学学校検診を行った。

### 【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，松山町（志布志市），財部町（曾於市），大崎町（曾於市），輝北町（鹿屋市）

### 【受診者数】

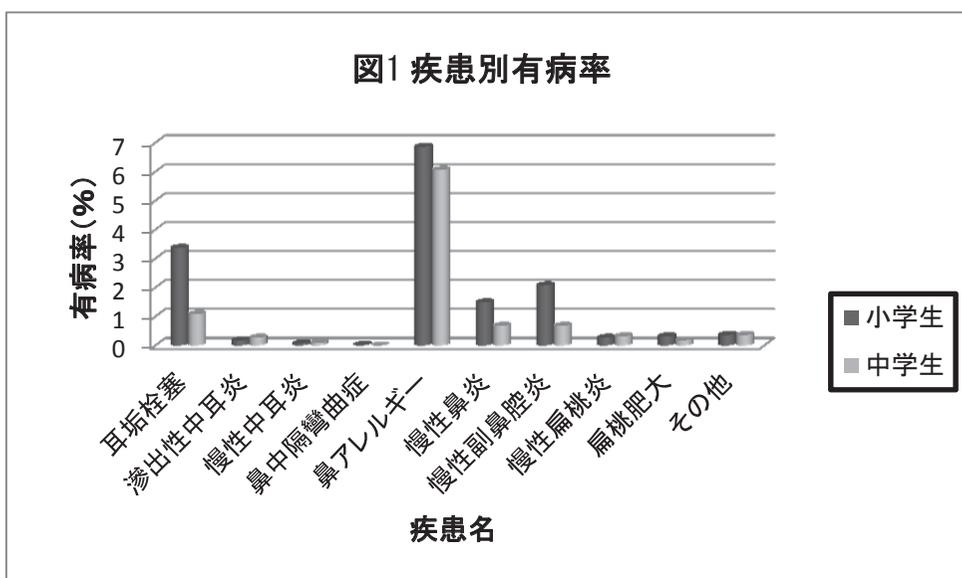
小学生4,098名，中学生2,211名

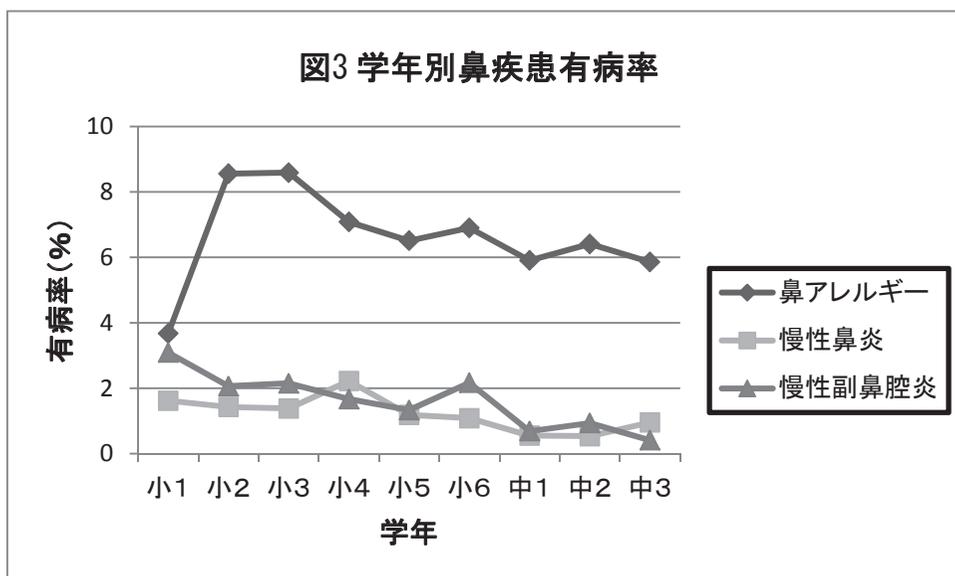
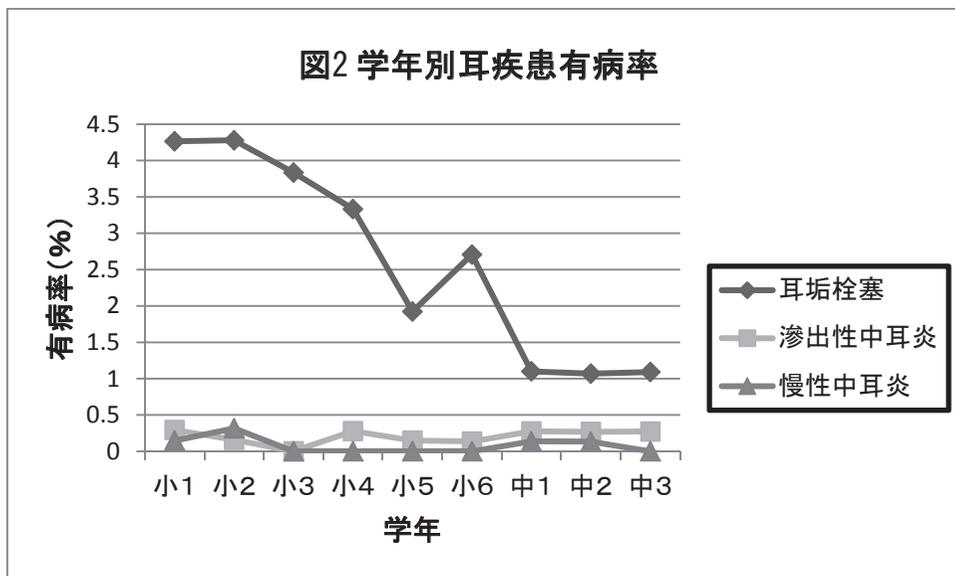
### 【対象疾患】

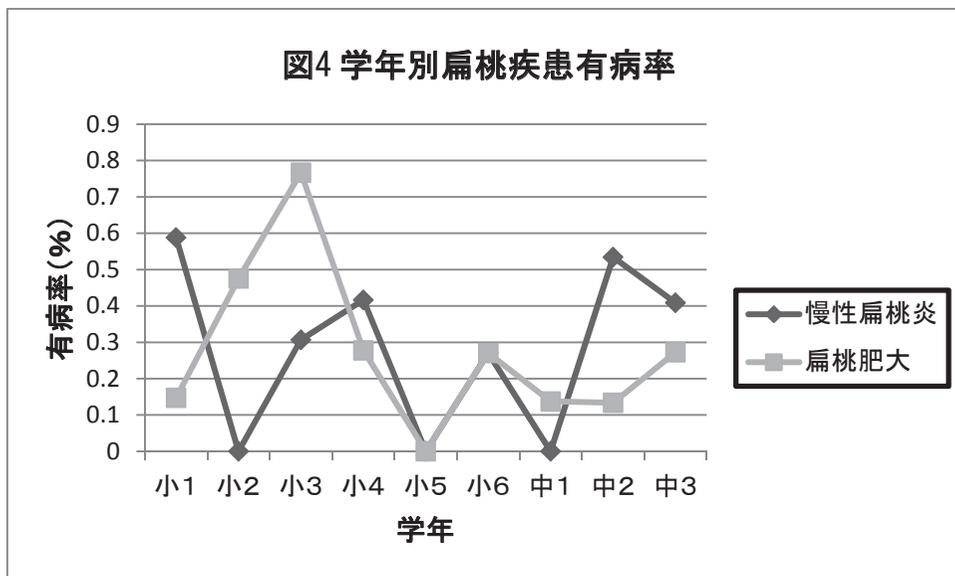
耳垢栓塞，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔彎曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大の9疾患

### 【結果】

疾患別の有病率については、ここ数年の傾向どおり鼻アレルギーが圧倒的に多く、耳垢栓塞，慢性副鼻腔炎の順であった（図1）。耳疾患は学年とともに有病率は減少傾向であった（図2）。鼻疾患では、鼻アレルギーはここ数年と比較してどの学年でも少なく、10%弱の有病率であった（図3）。扁桃疾患は、ここ数年と比較して中学生の慢性扁桃炎の有病率が高かった（図4）。







## 難聴・耳鳴・めまい外来

宮之原 郁 代

いつも貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。当科では完全予約制になり2年を経過しました。限られた予約枠ですので、新患があまり待たされることなく受診できるよう有効に活用していきたいと、日々心を砕いております。診断・治療方針を決定したら、日頃の加療や経過フォローは、ご紹介頂いた先生方へお願いし、症状の変化があったとき、さらなる精査が必要と考えられたとき、別の治療法の選択を考慮する場合を中心に、再診して頂くように心がけています。人工内耳候補者選定、術後の(リ)ハビリテーション、補聴器フィッティング、TRT療法などは、これまで通り行っております。近年は、以下の手法を用いた診断、治療に積極的に取り組んでおります。

## 1) 3T-MRIによる内耳画像診断

院内ならびに近接する施設にあわせて3台の3T-MRI導入されております。微細な内耳病態の評価を診断・聴覚管理に活用しています。また、ガドリニウム鼓室内注入による内リンパ水腫の診断も行っております。

## 2) 先天性難聴の遺伝子診断

当科では、これまで「難聴の遺伝子診断」に関して信州大学との全国共同研究を行ってきており、2011年1月から先進医療（共同実施）、昨年度より保険診療として、難聴の遺伝子診断を行うことができるようになりました。院内の遺伝カウンセリング室との連携はもちろんですが、当科でも臨床遺伝専門医が誕生し、難聴の遺伝子診断と遺伝カウンセリングに取り組んでおります。

## 3) 突発性難聴、内リンパ水腫病態に対する鼓室内注入療法

メニエール病に対するゲンタマイシン鼓室内注入療法、突発性難聴、メニエール病に対するステロイド鼓室内注入療法を施行しております。特にステロイド鼓室内注入療法については、ランダム化比較臨床研究を行っています。

中等度以上の急性感音難聴症例の治療について、ぜひ活用して頂ければと思います。

今後も引き続き聴覚、めまい分野における診療の充実を図っていききたいと思います。

## VIII. 手術実績

### 平成24年度 手術内訳と件数 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

全身麻酔	424件					
局所麻酔	78件					
合計	502件					
	術式	件数	術式	件数		
耳	鼓室形成術	22	喉頭	喉頭悪性腫瘍切除術(LMS25,全摘7)	32	
	先天性耳瘻管摘出術	7		喉頭蓋嚢胞摘出術	12	
	乳突洞削開術	6		声帯ポリープ切除術	12	
	鼓膜切開術	2		喉頭肉芽腫切除術(LMS)	5	
	チューブ留置術	2		喉頭良性腫瘍切除術(LMS)	4	
	顔面神経減荷術	2		声門開大術(Ejnell法)	2	
	外耳道悪性腫瘍切除術(外側側頭骨切除)	1		声帯カラーゲン注入術	1	
	外耳道拡大術	1		甲状軟骨形成術	1	
	人工内耳挿入術	1		喉頭拳上術	1	
	外リンパ瘻閉鎖術	1		喉頭気管分離術	1	
鼻	鼻内視鏡下副鼻腔手術(ESS)	57		デブリードマン(喉頭外傷)	1	
	鼻中隔矯正術	20	甲状腺	甲状腺良性腫瘍切除術(部分切除)	9	
	術後性上顎嚢胞開放術	11		甲状腺悪性腫瘍切除術(部分切除)	6	
	副鼻腔試験開窓術	10		甲状腺悪性腫瘍切除術(全摘)	2	
	下甲介粘膜下切除術	8	唾液腺	耳下腺良性腫瘍切除術(浅葉切除)	20	
	鼻・副鼻腔良性腫瘍切除術	6		顎下腺摘出術(唾石4,良性5,悪性1)	10	
	後鼻孔ポリープ切除術	5		唾石摘出術(口内法)	2	
	蝶口蓋動脈切断術	3		耳下腺悪性腫瘍切除術	1	
	鼻骨骨折整復術	3	頸部	頸部郭清術	31	
	上顎骨骨折整復術	3		リンパ節摘出術	22	
	眼窩底骨骨折整復術	3		気管切開術	22	
	後鼻神経切断術	2		正中頸嚢胞摘出術	7	
	鼻腔涙嚢吻合術	1		深頸部膿瘍切開排膿術	5	
	鼻粘膜焼灼術	1		気管孔拡大術	4	
	眼窩内膿瘍排膿術	1		頸部腫瘍摘出術	3	
	鼻腔悪性腫瘍切除術	1		側頸嚢胞摘出術	3	
	上顎良性腫瘍摘出術	1		気管孔閉鎖術	2	
	上顎悪性腫瘍切除術(上顎亜全摘)	1		皮下腫瘍摘出術	1	
	下顎骨チタンプレート除去術	1		顎下部膿瘍切開排膿術	1	
	口腔	舌悪性腫瘍切除術(舌部分切除術)	10		側頭部皮下膿瘍切開排膿術	1
口腔底悪性腫瘍切除術		3		デブリードマン(頸部裂傷)	1	
舌皮弁減量術		2	異物	下咽頭異物摘出術(義歯2,魚骨2)	4	
舌悪性腫瘍切除術(舌亜全摘)		1		食道異物摘出術(魚骨)	4	
舌良性腫瘍切除術		1		気管支異物摘出術(ピーナッツ)	1	
頬粘膜良性腫瘍切除術		1	再建	前腕皮弁再建術	6	
頬粘膜悪性腫瘍切除術		1		遊離空腸再建術	5	
ガマ腫摘出術		1		大胸筋皮弁再建術	2	
咽頭		両側口蓋扁桃摘出術	71		DP皮弁再建術	1
		下咽頭悪性腫瘍切除術(ESD21,咽喉食摘5)	26		PMMC皮弁再建術	1
	アデノイド切除術	24	合計		609	
	食道直達鏡検査	22				
	中咽頭悪性腫瘍切除術	6				
	梨状陥凹瘻閉鎖術	2				
	咽頭狭窄拡大術	2				
	副咽頭間隙腫瘍摘出術	1				
	茎状突起切除術	1				
	輪状咽頭筋切断術	1				
	咽後膿瘍切開排膿術	1				

## 病理集計

2012年4月 -2013年3月

	悪性	件数	良性	件数
喉頭腫瘍	SCC	18	schwanoma	1
	他	2	neurofibroma papilloma	1 1
甲状腺腫瘍	papillary carcinoma	5	adenoma	1
	他	0	adenomatous goiter	1
上咽頭腫瘍	SCC	1		0
	他	0		
中咽頭腫瘍	SCC	12	papilloma	1
	他	0	lymphoepithelial cyst	1
下咽頭腫瘍	SCC	21	papilloma	2
	他	0		
舌腫瘍	SCC	7	epidermal cyst	1
	他	0		
口腔腫瘍	SCC	0		0
	他	0		
口腔底腫瘍	SCC	0		0
	他	0		
歯肉腫瘍	SCC	2		0
	他	0		
軟口蓋腫瘍	SCC	2		0
	他	0		
上顎腫瘍	SCC	4	myxoma	1
	他	0	adenomatoid odontogenic adenoma	1
鼻腔腫瘍	SCC	3	inverted papilloma	2
	nuroblastoma	1	pleomorphic adenoma	1
	melanoma	2	chordoma	1
	他	1	papilloma	3
耳下腺腫瘍	SCC	1	pleomorphic adenoma	20
	Salivary duct carcinoma	1	Warthin tumor	10
	mucoepidermoid carcinoma	1		
	undifferentiated carcinoma	1		
顎下腺腫瘍		0	pleomorphic adenoma	1
聴器腫瘍	SCC	1	hemangioma	1
	他	0		
悪性リンパ腫		5		0
合計		91		51

総検体数	1464
------	------

(平成25年3月現在)

### 文部科学省科学研究費

#### 基盤研究 (C)

経皮免疫による上気道粘膜免疫応答の誘導

研究代表者 問世田 佳子

分担者 黒野 祐一 宮下 圭一 永野 広海 牧瀬 高穂

#### 若手研究 (B)

粘膜ワクチンによる I 型アレルギーの誘導機序とその制御に関する研究

研究代表者 宮下 圭一

#### 若手研究 (B)

スギ花粉症初期療法が鼻粘膜ヒスタミン H1 受容体発現に及ぼす効果と機序に関する研究

研究代表者 牧瀬 高穂

#### 若手研究 (B)

好酸球性副鼻腔炎におけるロイコトリエン受容体変異と難治性に関する研究

研究代表者 大堀 純一郎

### 厚生労働省科学研究費補助金

免疫療法による花粉症予防と免疫療法のガイドライン作成にむけた研究

主任研究者 岡元 美孝 (千葉大学 耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)

分担研究者 黒野 祐一

## 1. 原 著

- (1) 永野広海, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫, 黒野祐一  
コレラトキシン経皮免疫による粘膜免疫応答  
日本口腔・咽頭科学会 25(1): 79-84, 2012
- (2) 永野広海, 早水佳子, 大堀純一郎, 黒野祐一  
下鼻甲介に基部を有する鼻ポリープ例  
耳鼻臨床 105(6): 533-536, 2012
- (3) 吉福孝介, 馬越瑞夫, 黒野祐一  
頸部に発生した悪性線維性組織球腫例  
耳鼻臨床 105(8): 787-792, 2012
- (4) Y.Kurono, H.Nagano, M.Umakoshi and T. Makise  
Diversity of mucosal immune responses in upper respiratory airways and the  
suitability of mucosal vaccines  
Clinical & Experimental Allergy Reviews 12: 1-6, 2012
- (5) 黒野祐一  
スギ・ヒノキ花粉症患者の受診実態と治療満足度  
－患者アンケート調査から－  
Progress in Medicine 32(12): 2687-2693, 2012
- (6) 大堀純一郎, 吉福孝介, 早水佳子, 黒野祐一  
扁桃周囲膿瘍におけるレボフロキサシン500mg の扁桃組織移行性の検討  
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 30(1): 47-50, 2012
- (7) H.Ngano, M.Harada, M.Umakoshi, Y.Hayamizu, K.Yoshifuku, Y.Kurono  
Two cases of peritonsillar abscess complicated by von Willebrand disease  
Auris Nasus Larynx 39(5): 523-526, 2012

- (8) 小林正佳, 三輪高喜, **黒野祐一**, 丹生健一, **松根彰志** 他14人  
 静脈性嗅覚検査・希釈法の有用性に関する検討  
 日本鼻科学会会誌 (51)4: 445-449, 2012
- (9) **吉福孝介**, **大堀純一郎**, **宮下圭一**, **黒野祐一**  
 成人急性喉頭蓋炎に対する気道確保の適応  
 耳鼻臨床 106(2): 149-153, 2013
- (10) **吉福孝介**, **松根彰志**, **相良ゆかり**, **福岩達哉**, **田中紀充**, **宮下圭一**, **原田みずえ**  
**大堀純一郎**, **黒野祐一**, **積山幸祐**, **茶園篤男**, **首藤 純**, **友永和宏**, **谷本洋一郎**  
 アレルギー性鼻副鼻腔炎患者に対する抗ヒスタミン薬とマクロライドの併用療法の  
 有効性—コンピュータ断層撮影 (CT) による評価—  
 耳鼻と臨床 59(2): 55-63, 2013

## 2. 総 説

- (1) **黒野祐一**  
 特集小児の耳鼻咽喉科108の疑問  
 発達 Q&A-6 免疫系・リンパ組織はどのように発達するのか?  
 JOHNS 28(3): 275-276, 2012
- (2) **黒野祐一**  
 アレルギー性鼻炎 日常生活の指導  
 臨床医のためのアレルギー診療ガイドブック 187-194, 2012
- (3) **黒野祐一**  
 特集 目で見る咽喉頭・気管食道の検査  
 咽喉頭のCT検査  
 JOHNS 28(6): 853-856. 2012
- (4) **黒野祐一**  
 特集 最新の診療 NAVI- 日常診療必携  
 Ⅶ. 炎症・感染症診療 NAVI 5. 深頸部膿瘍  
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 84(5) 増刊号201-205, 2012

- (5) 黒野祐一  
 解説 アレルギー性鼻炎遷延化の要因とその対応  
 臨床免疫・アレルギー科 58(5): 608-612, 2012
- (6) 黒野祐一  
 特集：最新のアレルギー診療 アレルギー性鼻炎  
 臨床と研究 89(3): 16-20, 2012
- (7) 大堀純一郎, 黒野祐一  
 特集・耳鼻咽喉科における抗ウイルス薬・ステロイドの効果的処方  
 「耳介軟骨膜炎等の診断と治療におけるステロイドの使い方」  
 MB ENT 139: 117-121, 2012
- (8) 黒野祐一, 大堀純一郎  
 特集：喘息難治化の要因と治療 鼻・副鼻腔炎  
 アレルギーの臨床 32(14): 1315-1318, 2012
- (9) 黒野祐一  
 特集 最新の鼻・副鼻腔疾患診療 スギ・ヒノキ花粉症  
 日本医師会雑誌 141(10): 2173-2175, 2013
- (10) 黒野祐一  
 アレルギー疾患ガイドラインとその使い方 アレルギー性鼻炎  
 Modern Physician 33(2): 156-159, 2013
- (11) 黒野祐一  
 特集：図でみる免疫学の ABC 免疫系の仕組みと基礎  
 免疫とは  
 JOHNS 29(3): 283-286, 2013

### 3. 国内学会発表

#### (1) 特別講演

九州大学医学部臨床講義 平成24年4月6日 (福岡市)

「上気道の免疫・アレルギー疾患」

黒野祐一

三泗耳鼻咽喉科医会学術講演会 平成24年4月18日 (四日市市)

「急性上気道感染症に対するニューキノロン系抗菌薬の位置づけ」

黒野祐一

第17回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス 平成24年4月21日 (東京都)

「急性上気道感染症の診療における留意点－病診連携の観点から－」

黒野祐一

熊本大学医学部4年生講義 平成24年5月23日 (熊本市)

「上気道疾患と粘膜免疫」

黒野祐一

第75回大分耳鼻咽喉科臨床研究会 平成24年5月31日 (大分市)

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ロイコトリエン薬の位置付け」

黒野祐一

洞薬会6月度学術講演会 平成24年6月14日 (北九州市)

「耳鼻咽喉科疾患に対するマクロライド療法－最近の話題－」

黒野祐一

北摂アレルギー研究会 平成24年6月28日 (高槻市)

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

北九州地区小児科医会7月例会 平成24年7月21日 (北九州市)

「上気道感染症と粘膜免疫」

黒野祐一

第6回相模原臨床アレルギーセミナー 平成24年8月4日 (横浜市)

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

島根大学医学部講義 平成24年9月3日 (出雲市)

「鼻科領域の疾患と治療－薬物療法から鼻内視鏡手術まで－」

黒野祐一

Asthma & Allergy Forum in Osaka テーマ：鼻炎合併喘息 平成24年9月8日 (大阪市)

「鼻の機能と下気道への影響」

黒野祐一

感染症講演会 平成24年9月15日 (那覇市)

「耳鼻咽喉科領域の感染症について」

黒野祐一

アレルギー性鼻炎の治療戦略 平成24年10月6日 (神戸市)

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

第108回中越耳鼻咽喉科臨床懇話会 平成24年10月12日 (長岡市)

「アレルギー性鼻炎に対する治療薬の選択」

黒野祐一

第27回東京医科大学医療連携耳鼻咽喉科カンファレンス 平成24年11月1日 (東京都)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」

黒野祐一

Allergic Rhinitis Forum in Yokohama ～2013年花粉症シーズンへ向けた治療戦略～  
平成24年11月11日 (横浜市)

「小児副鼻腔炎の診断のポイント」

黒野祐一

第14回東京N A M (Nasal Allergy Meeting) 平成24年12月6日 (東京都)

「鼻アレルギー診療ガイドライン2013年版の要点」

黒野祐一

埼玉アレルギー臨床フォーラム 平成25年1月10日 (さいたま市)

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

医療シンポジウム「専門医が解説 花粉症治療の最前線」平成25年1月12日 (大阪市)

「花粉症の最新情報と正しい対策」

黒野祐一

長崎耳鼻咽喉科専門医講座 平成25年1月30日 (長崎市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える

～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

第18回奈良県鼻副鼻腔研究会 平成25年2月2日 (奈良市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の診療における留意点」

黒野祐一

北勢地区学術講演会 平成25年2月9日 (四日市市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える

～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

倉敷アレルギー学術講演会 平成25年2月21日 (倉敷市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

下関市医師会学術講演会 平成25年2月27日 (下関市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える ～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

第49回沖縄耳鼻咽喉科懇話会 平成25年3月2日 (那覇市)

「アレルギー性鼻炎とその周辺疾患の取り扱い」

黒野祐一

アレルギーセミナー2013 平成25年3月13日 (名古屋市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

千葉小児アレルギーセミナー 平成25年3月27日 (千葉市)

「アレルギー性鼻炎における鼻閉とその治療」

黒野祐一

滋賀県耳鼻咽喉科セミナー 平成25年3月28日 (京都市)

「アレルギー性鼻炎・花粉症の鼻閉を考える～患者満足度のさらなる向上を目指して～」

黒野祐一

## (2) シンポジウム

第25回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 平成24年9月13日～14日 (熊本市)

扁桃周囲膿瘍・深頸部膿瘍への対応－重症度に応じた治療選択－

「待機および即時扁桃摘の適応」

大堀純一郎

第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第36回日本医用エアロゾル研究会

平成24年9月7日～8日 (下関市)

耳鼻咽喉科領域の病診連携を考える－重症化を防ぐために－

「深頸部膿瘍・縦隔膿瘍の病診連携」

大堀純一郎

第62回日本アレルギー学会秋季学術大会 平成24年11月29～12月1日 (大阪市)

One airway, one disease と各科の連携

「上気道炎症と粘膜免疫」

黒野祐一

第23回 日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成25年1月24日～25日（鹿児島市）

「高齢者耳鼻咽喉科手術の治療成績と術後合併症」

西元謙吾

「下咽頭表在癌に対する内視鏡下粘膜下切除術」

大堀純一郎

(3) ランチョンセミナー

第31回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成25年2月7日～9日（倉敷市）

「鼻噴霧用ステロイド薬の初期療法への可能性」

大堀純一郎

(4) 教育講演

第24回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成24年5月12日～13日（大阪市）

「アレルギー疾患のガイドライン」

片山一朗, 大田 健, 河野陽一, 黒野祐一

第60回日本化学療法学会西日本支部総会

第55回日本感染症学会中日本地方会学術集会

第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会

平成24年11月5日～11月7日（福岡市）

「深頸部膿瘍の診断と治療」

黒野祐一

(5) 一 般

第31回気道分泌研究会 平成24年4月7日（東京都）

「肺炎球菌の咽頭上皮接着における Poly (I:C) の関与」

川島雅樹, 黒野祐一

第113回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成24年5月10日～12日（新潟市）

「スギ花粉症に対するプラシチン初期療法の有用性」

「鼻閉と眠気に対する影響について」

宮之原郁代, 原田みずえ, 宮下圭一, 積山幸祐, 黒野祐一

第24回日本アレルギー学会春季臨床大会 平成24年5月12日～13日 (大阪市)

「アレルギー性鼻副鼻腔炎に対するマクロライドと抗ヒスタミン薬の併用療法」

吉福孝介, 黒野祐一, 積山幸祐, 茶園篤男, 首藤 純

第36回日本頭頸部癌学会 平成24年6月7日～8日 (松江市)

「高齢者頭頸部癌症例の検討」

大堀純一郎, 吉福孝介, 宮下圭一, 黒野祐一

第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 平成24年6月21日～22日 (岡山市)

「内頸静脈血栓症を合併した両側の急性乳様突起炎の1症例」

早水佳子, 黒野祐一

「小児上顎洞性後鼻孔ポリープの臨床的検討」

井内寛之, 牧瀬高穂, 大堀純一郎, 宮下圭一, 川島雅樹, 黒野祐一

第27回九州連合地方部会学術講演会 平成24年7月14日～15日 (宮崎市)

「成人急性喉頭蓋炎症例に対する気道確保の適応について」

吉福孝介, 大堀純一郎, 宮下圭一, 黒野祐一

「深頸部感染合併例に対する即時膿瘍扁摘の有用性」

井内寛之, 大堀純一郎, 馬越瑞夫, 宮下圭一, 原田みずえ, 吉福孝介, 黒野祐一

第74回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 平成24年7月5日～6日 (東京都)

「頸部軟部組織アミロイドーマの1例」

川島雅樹, 吉福孝介, 永野広海, 黒野祐一

「頸動脈小体腫瘍の術前評価と術中所見の比較検討」

牧瀬高穂, 川島雅樹, 大堀純一郎, 吉福孝介, 黒野祐一

「ハント症候群との鑑別を要した前下小脳動脈症候群の1例」

積山幸祐, 黒野祐一

第19回マクロライド新作用研究会 平成24年7月6日～7日 (東京都)

「ヒト中耳粘膜上皮における IL-8, VEGF 産生に対するマクロライドの効果」

原田みずえ, 黒野祐一

南九州腫瘍研究会 第21回学術集会 平成24年8月7日 (鹿児島市)

「下咽頭癌に対する経口的腫瘍切除術」

大堀純一郎, 宮下圭一, 牧瀬高穂, 川島雅樹, 黒野祐一

第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第36回日本医用エアロゾル研究会

平成24年9月7日～8日 (下関市)

「喉頭蓋乱切術の効果についての検討」

吉福孝介, 宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一

第25回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 平成24年9月13日～14日 (熊本市)

「扁桃周囲間隙外に進展した扁桃周囲膿瘍に対する即時膿瘍扁摘の有用性」

川島雅樹, 井内寛之, 大堀純一郎, 黒野祐一

第51回日本鼻科学会総会ならびに学術講演会 平成24年9月27日～29日 (千葉市)

「特発性鼻性髄液漏が原因と考えられた細菌性髄膜炎の1例」

積山幸祐, 黒野祐一

「ヒト鼻茸線維芽細胞の VEGF 産生に対するステロイドの影響」

吉福孝介, 原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一

「鼻副鼻腔内反型乳頭腫再発症例に対する術式の検討」

宮下圭一, 井内寛之, 大堀純一郎, 黒野祐一

第22回 日本耳科学会総会・学術講演会 平成24年10月4日～6日 (名古屋市)

「ヒト中耳粘膜上皮における IL-8産生とマクロライドの効果」

原田みずえ, 黒野祐一

「増悪・寛解を繰り返した悪性外耳道炎の一例」

宮下圭一, 黒野祐一

第60回日本化学療法学会西日本支部総会

第55回日本感染症学会中日本地方会学術集会

第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会 平成24年11月5日～11月7日 (福岡市)

「成人急性喉頭蓋炎症例に対する気道確保の適応について」

吉福孝介, 大堀純一郎, 宮下圭一, 黒野祐一

「扁桃周囲膿瘍のCT画像所見と臨床像の検討」

大堀純一郎, 宮下圭一, 吉福孝介, 黒野祐一

第64回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 平成24年11月8日～9日（東京都）

「血管浮腫症例の検討」

原田みずえ，吉福孝介，黒野祐一

第31回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成25年2月7日～9日（倉敷市）

「PC 経皮免疫による粘膜免疫応答の誘導」

永野広海，黒野祐一

第25回日本喉頭科学会・学術講演会 平成25年3月7日～8日（横浜市）

「経口的下咽頭部分切除術後に誤嚥をきたした1例」

川島雅樹，大堀純一郎，黒野祐一

#### 4. 国際学会発表

14<sup>th</sup> Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery

Kyoto Japan April 12-14, 2012

「Efficacy of combined treatment with a macrolide and an antihistamine for patients with nasal allergy complicated with chronic rhinosinusitis」

K.Yoshifuku,

「Transcutaneous immunization with cholera toxin in BALB/c mice」

H.Nagano, M.Umakoshi, T.Makise, Y.Hayamizu, Y.Kurono

24<sup>th</sup> Congress of the European Rhinologic Society 31<sup>th</sup> International Symposium of Infection & Allergy of the Nose

Toulouse, France June 17-21, 2012

「Intranasal immunization of with phosphorylcholine reduced type I allergic responses in mice」

Y.Kurono, K.Miyashita, Y.Hayamizu, and S.Fukuyama

「Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF) was Produced from Nasal Polyp Epithelial Cells Stimulated with VEGF via upregulation of VEGF Receptor-1」

J.Ohori, K.Yoshifuku, Y.Kurono

Seven Departments Join Meeting of Otorhinolaryngology 2013

Matsue city, Shimane prefecture, Japan March 29-30, 2013

「Assessment of the Toxicity of Two Cycles of Neoadjuvant Docetaxel Cisplatin, and 5-Fluorouracil (TPF) Chemotherapy」

H.Nagano, M.Harada, K.Miyashita, J.Ohori, K.Yoshifuku, Y.Kurono

「Endoscopic Submucosal Dissection for Superficial Hypopharyngeal Cancer」

T.Makise, J.Ohori, K.Miyashita, Y.Kurono

## 5. 学位論文要旨

医論第1478号

### The role of vascular endothelial growth factor in pediatric otitis media

小児滲出性中耳炎における血管内皮増殖因子(VEGF)の役割

積山 幸祐

#### 【序論および目的】

滲出性中耳炎（以下 OME）は小児の代表的な上気道感染症の一つであり，細菌感染によってもたらされ，その遷延化に interleukin 1(IL-1), IL-2, IL-6, IL-8, and tumor necrosis factor alpha(TNF- $\alpha$ ) エンドトキシンなどが関与することが知られている。また，耳管機能障害によって生じるガス交換障害が中耳の低酸素状態を引き起こし，難治化を招くことも報告されている。しかし，OME の遷延化や難治化の機序については未だ十分に解明されていない。

最近，エンドトキシン注入で作成された OME 動物モデルで血管内皮細胞増殖因子(vascular endothelial growth factor : VEGF) の mRNA の発現と VEGF 蛋白の産生が発見された。また，VEGF をラットの中耳に注入すると中耳貯留液が産生されることが証明された。VEGF は強力な血管透過性亢進作用や血管新生作用を有する分子量約 34-42kDa の蛋白質で，低酸素やエンドトキシン，炎症性サイトカイン等によって産生が促進されることが知られている。

これらの結果から VEGF が低酸素やエンドトキシン，サイトカイン等による刺激によって中耳で産生され，中耳粘膜の血管透過性を増強し，OME 形成に関係していることが示唆される。しかしヒトの OME における中耳貯溜液中の VEGF の濃度そしてその意義に関する報告はない。

そこで今回我々は，小児 OME における中耳貯溜液中の VEGF 濃度を測定し，その役割を検討する目的で本研究をおこなった。

**【材料および方法】**

滲出性中耳炎と診断され鼓膜切開を施行された1歳から12歳までの小児33人を対象とし、49耳から得られた中耳貯留液を解析した。

中耳貯留液を採取直後の肉眼所見によって粘液性、漿液性に分類し、その重量を測定後、PBSで希釈・攪拌し、遠心分離のちその上清を採取し、測定まで-80℃で保存した。

そして、上清中のVEGFのほか、炎症や細菌感染の指標としてIL-8、エンドトキシン、血管透過性の指標としてアルブミンの濃度を、それぞれELISA法、Limulus Amebocyte Lysate test、免疫比濁法によって測定した。

さらに、中耳貯留液の性状別にVEGF、IL-8、エンドトキシン、アルブミン濃度を比較検討した。

**【結 果】**

測定した中耳貯留液中の61%が粘液性で39%が漿液性であった。両群間で年齢、性別のばらつきはなかった。中耳貯留液中にVEGFとアルブミンは100%検出され、エンドトキシンは89%、IL-8は98%、検出された。粘液性貯留液中のVEGF、エンドトキシン、IL-8濃度は漿液性に比して有意 ( $p < 0.01$ ) に高値であった。アルブミンは、有意差はなかった。

粘液性中耳貯留液中のVEGFとエンドトキシン ( $R = 0.42, p < 0.05$ ) には正の相関が認められた。VEGFとアルブミンにはさらに強い正の相関 ( $R = 0.81, p < 0.01$ ) がみられた。

**【結論及び考察】**

すべての中耳貯留液でVEGFが検出され、VEGFが小児滲出性中耳炎の病態に関与していることが示唆された。VEGFと同様にアルブミンもすべての中耳貯留液で検出され、粘液性中耳貯留液でVEGFとアルブミンには有意な正の相関がみられた。アルブミンは血清からの漏出で、中耳粘膜では産生されない。またVEGFは血清でも検出されるがその濃度は今回測定した中耳貯留液中のVEGF濃度よりはるかに低い。これらのことからVEGFは中耳局所で産生され、粘液性中耳貯留液を有するOME患者の中耳粘膜の血管透過性を亢進させることが示唆された。一方、漿液性中耳貯留液では、VEGF濃度は粘液性中耳貯留液より有意に低く、VEGFとアルブミンの相関は見られなかった。ヒスタミンやプロスタグランジン、ロイコトリエン、血小板活性化因子などは血管透過性作用があり、中耳に存在することが証明されており、これらのVEGF以外の因子が漿液性中耳貯留液形成に関与していることが推測された。

エンドトキシンとIL-8はほとんどの中耳貯留液で検出されその濃度は漿液性のものよ

り粘液性のもので有意に高値であった。これまで IL-8が、ヒトの杯細胞の MAC5AC と MAC5B のムチン分泌を増強させることやエンドトキシンで誘導されたラットの OME モデルにおいて MAC5AC ムチンの遺伝子発現が亢進していることなどが報告されている。またインフルエンザ菌由来のエンドトキシンが NF  $\kappa$  B 活性を介して IL-8産生を増強させることも報告されている。粘液性中耳貯留液中のエンドトキシンと IL-8が有意に高値であったことは、これらのことと関係していると思われる。

粘液性中耳貯留液においてエンドトキシンと VEGF は有意な正の相関があった。漿液性のもものでは相関はなく、IL-8と VEGF、エンドトキシンと IL-8はどのタイプの中耳貯留液でも相関はなかった。VEGF の産生に関しては、エンドトキシンで誘導されたラットの OME モデルで VEGF の強い発現が見られることやマクロファージではエンドトキシンが VEGF を直接的に産生することから、TRL4を介した情報伝達経路がその産生機序の一つと考えられている。我々は以前、ヒトの鼻の線維芽細胞において、インフルエンザ菌由来のエンドトキシン刺激によって VEGF の時間依存的な産生が生じることを証明した。以上の所見から粘液性中耳貯溜液の中耳粘膜における VEGF 産生は、エンドトキシンによって直接的に調節されていると推測される。

その他、VEGF 産生には低酸素や炎症性サイトカインも関与することが知られている。また、最近、低酸素因子が VEGF 産生を増強することが証明された。さらに OME の中耳貯留液の酸素分圧は外傷後の中耳貯留液より低値で、粘液性中耳貯留液を有するものは、漿液性のもよりさらに低値であったという報告がある。したがって、中耳換気障害による低酸素状態やエンドトキシンそして炎症性サイトカインなど様々な要因が相加的あるいは、相乗的に作用するために、粘液性中耳貯留液のほうが漿液性中耳貯留液よりも VEGF が高値になると推測される。

以上の結果から、小児滲出性中耳炎ではエンドトキシンや低酸素刺激により VEGF が産生され、これが粘液性中耳貯留液の形成に関係していると考えられた。

(Auris Nasas Larynx Online publication complete: 11-JAN-2011)

## 総研第192号

### Polyinosine-polycytidylic Acid Enhances Cellular Adherence of *Streptococcus pneumoniae*

Polyinosine-polycytidylic acid が *Streptococcus pneumoniae* の上皮接着に及ぼす影響

川島 雅樹

#### 【序論および目的】

ウイルス性上気道感染症の後に、細菌感染が続発することが知られている。また、肺

肺炎球菌は上気道の常在菌である一方で、急性中耳炎や急性副鼻腔炎の主な起因菌でもある。しかしながら、常在菌が病原菌へとなる機序についての詳細は解明されていない。

近年、ウイルス感染症が肺炎球菌による下気道感染症を増強する報告もされている。

ウイルスの構成成分である dsRNA (double-stranded RNA) の合成化合物である Polyinosine-polycytidylic acid (Poly [I:C]) が肺炎球菌の咽頭上皮接着に与える影響について検討した。

#### 【材料および方法】

ヒト咽頭癌細胞由来の Detroit 562 (ATCC CCL-138) を用いた。

肺炎球菌は、上皮細胞の Platelet-activating factor receptor (PAF-R) を介して接着することが知られている。Poly (I:C) による Detroit 562細胞の PAF-R 発現量の変化を Real-time polymerase chain reaction (Real-time PCR), Flow cytometry, 免疫染色を行って検討した。

また、Poly (I:C) による刺激前後での肺炎球菌の上皮接着数を比較した。

Fluorescein isothiocyanate (FITC) で標識した肺炎球菌の上皮接着数を顕微鏡観察下に数えた。同時に、上皮に接着した細菌を血液寒天培地で培養し、コロニー数を数えた。更に、PAF-R のアンタゴニストによる肺炎球菌の上皮接着阻害効果を検討した。

#### 【結 果】

Poly (I:C) の刺激により、Detroit 562の PAF-R 発現量が増加した。また、肺炎球菌の接着も促進された。更に、この肺炎球菌の接着亢進の大部分は、PAF-R のアンタゴニストにより抑制された。

#### 【結論及び考察】

以上の結果より、RNA ウイルスの構成成分が存在することで、上皮の PAF-R 発現量が増加し肺炎球菌の上皮接着亢進することが示唆された。

RNA ウイルス感染により咽頭上皮細胞への肺炎球菌の接着が亢進することが、常在菌である肺炎球菌が病原菌となる理由の一つである可能性が示唆された。

(Laryngoscope Vol.121, No.11 2011年 掲載)

### 1. 新入局員紹介

この度、4月から入局させていただくこととなりました地村友宏と申します。出身は京都で、鹿児島大学医学部を卒業後、研修医として鹿児島医療センターと鹿児島大学病院で1年間ずつ勤務しました。大学入学時から耳鼻科医になると決めていました。そして5年生の臨床実習、6年生の耳鼻科所属の実習、研修医として2年間で計12ヶ月間の耳鼻科研修を通じ、鹿児島で耳鼻科医になろうという思いが強くなりました。とても忙しい日々ですが充実した時間を過ごせています。これから医師として耳鼻科医として鍛錬していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

大学時代の部活：ゴルフ部

好きな野球チーム：オリックスバファローズ

苦手な乗り物：トッピー、コーヒーカップ

### 2. 医局人事（平成25年4月現在）

教 授	黒野祐一
講 師	吉福孝介，大堀純一郎
助 教	間世田佳子，原田みずえ，宮下圭一，永野広海
医 員	川島雅樹，牧瀬高穂，井内寛之，地村友宏
大学院生	牧瀬高穂，永野広海，地村友宏

医 局 長	宮下圭一
外来医長	川島雅樹
病棟医長	永野広海

### 関連病院（平成25年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，馬越瑞夫
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元総合病院	森園健介

あまたクリニック  
鹿児島市立病院

谷本洋一郎  
高木 実

### 3. 学会報告

## 第31回気道分泌研究会

川 畠 雅 樹

H24年4月7日、オープン間近の東京スカイツリーのすぐ傍で開催されました。私の研究テーマである、肺炎球菌の咽頭粘膜上皮への接着に関する基礎研究の結果を発表致しました。2週後に控えた学位審査と同じ内容の発表ということもあって気合いをいれて臨んだのですが・・・、実際には自分の伝えたいことを、会場の方に簡潔に伝えることができませんでした。自分の考えを、限られた時間で簡潔に伝えることの難しさを改めて実感しました。「うまく伝えるためには・・・」との思いから、自宅に帰るなり池上彰さんの著書を食い入るように読んでしまったのでした。学位審査にはその効果がでたのでしょうか…？この研究会では、私の研究テーマと関連した内容の発表が多く、研究のアイデアのヒントがいろいろと拝聴できました。

休憩時間には思わずスカイツリーのすぐ下まで駆けていき、仰ぎ見て、ひとり言い知れぬ感動にひたっていたのでした。

## 第113回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

2012年5月10日～12日

朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）・新潟市

宮之原 郁 代

昨年の耳科学会に続き、今回の日耳鼻もプログラム、抄録すべて、iPhoneで持参しました。最近の学会では電子媒体での配信が充実してきて、大変助かっています。そのうち、発表原稿（スライド）も事前登録ができるようになるのかもしれませんが。（そうになるとUSBを持ち歩かなくてすみますし、忘れた！とかいうこともなくなりそうです。何も持たずに、・・・スマホとクレジットカード、現金少々、簡単な旅支度ぐらいで身軽に学会に出かけられそうです。）

学会では、軟骨伝導聴覚（細井裕司教授）と粘膜における生体防御機構（氷見徹夫教

授)の2題の宿題報告を聞くことができました。軟骨伝導補聴器と携帯電話については、実際に試聴することができ、想像以上にクリアな音に驚きました。招待講演では、immune-mediated inner ear disorders (Jeffrey P. Harris 先生)を、特別講演では、「走査電子顕微鏡による立体組織学」(牛木辰男教授)を聞くことができました。特に牛木先生の講演では、会場で赤青めがねを利用して、SEM内で組織標本を微小解剖する実例を体験でき、リアルタイムでここまでできるのかーと感激しました。入局した頃、花牟禮先生に鼻粘膜のSEM画像を見せて頂いたことが懐かしく思い出されました。

さて私事ですが、はじめての新潟、ということで天気予報を参考に寒さ対策をして出かけたつもりでした。しかし、低気圧の影響で想像以上の強風と寒さでした！何か防寒用の衣類を買おうと駅周辺のショップで聞いてみましたが、もう冬物はないとのことでした。寒いとモチベーションが下がるので、持参したヒートテックの上にTシャツをきて、綿のシャツ、薄手のセーター、スーツジャケット、薄手のダウンと、ほぼ持ってきたものすべてを着込み何とかしのぎました。これだけ着れば暖かいだろうと思われかもしれませんが、こちらは寒すぎてあまり暖かく感じませんでした。足下は、ストッキングのみですから、やはり南国育ちで寒がりの私には寒さが身にしみました。食事は、鹿児島を出発する前にすすめられていた「いかの墨」にしてみました。とても、雰囲気がよく、「魚沼産極上コシヒカリの釜戸炊き土鍋ご飯、お茶漬けセット付き」はとてもおいしかったです。寒かったけど、充実した旅でした。

## 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会

吉 福 孝 介

第24回日本アレルギー学会春季臨床大会は2012年5月12日、13日に大阪国際会議場で開催され、当教室からは、黒野教授、自分吉福が参加させていただいた。国民から期待されるアレルギー診療を提供していくために、アレルギー診療の推進、その成果の国民への還元とアピール、よりアクセスしやすく役に立つ情報開示が必要と考えられ、今回の学会のテーマは「臨床アレルギー学の新たな座標軸：Navigation 2012」であった。本学会で、自分の発表(ポスター演題)は、「アレルギー性鼻副鼻腔炎患者に対する抗ヒスタミン薬とマクロライドの併用療法の有効性：コンピュータ断層撮影(CT)による評価」であった。この演題に興味をもたれた先生から、質問および励ましのお言葉を頂き有り難く感じました。

## 第36回日本頭頸部癌学会—第30回頭頸部手術手技研究会—

大堀 純一郎

本学会は、平成24年6月7日、8日の両日、鳥取大学耳鼻咽喉科の主催で、島根県民会館で開催された。当科からは、黒野教授と私、大堀が参加した。例年のように前日の6月6日には日本頭頸部癌学会教育セミナーが開催され、今年は、大唾液腺と喉頭がテーマとされていた。大唾液腺では、形成外科の先生方が、耳下腺癌の顔面神経切除後に神経再建を行い良好な結果を得られているところ見せつけられ、今後このような神経再建も行っていくべきだと考えさせられ、ますます手術手技を磨くモチベーションがわいてくるようなすばらしいセミナーであった。

特別講演には、宇宙探査機「はやぶさ」の生みの親である川口淳一郎先生の講演があり、研究者としていかにプロジェクトを成功させるか、また後身の育成についても非常に楽しく講演していただきとても感銘を受けた。

## 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術集会

間世田 佳子

本学会は、平成24年6月21日～22日に、岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 西崎和則会長のもと、岡山コンベンションセンターで開催され、私と井内寛之先生で参加致しました。本センターは、別名「ままかりホール」といわれ、岡山名産の魚の名前が付いている場所です。

今回のテーマは、『未来ある子供たちのために』と題し、学会ポスターも明るい未来に向かって歩いていく子どもたちを耳鼻咽喉科医が見守りたいという思いで制作されたそうです。

特別講演は、奈良女子医科大学保健管理センター教授の高橋裕子先生による「未来ある子どもたちをたばこから守るために」と題して行われました。またシンポジウムは、「小児難治症状への対応」と「言語発達評価から読み解く難聴児の現状」というタイトルで2つの開催となりました。

とても有難いことに、私は本学会に3年連続参加しているのですが、懇親会の席では、何度かお見かけしたことのある先生や勇気を出して質問した先生と、直々にお話をさせて頂くことが出来、とても嬉しかったです。岡山はB級グルメが有名だそうです、ひるぜん焼きそばや津山ホルモンうどんなども振るまわれましたが、うかうかしているうちに、私は食べ損ねてしまいました。

開催中は、生憎の梅雨真っ只中であり、終日雨が降り続けている状況でした。観光は諦めて、大人しく会場とホテルを行き来する私でしたが、井内先生はアクティブにタクシーにて後楽園に観光に出掛けたようです。これも、年齢の差なのでしょう。学会終了後、帰鹿すると同時に、悪寒が始まり、私は久しぶりに39度台の発熱と筋肉痛に悩まされたのでした。



(本学会のポスター)

## 第27回九州連合地方部会学術講演会

井内寛之

第27回九州連合地方部会学術集会は平成24年7月14日から7月15日まで宮崎市で開催された。

今年は燃える情熱をテーマに「赤」を基調とする新しいユニフォームで野球大会に参加した。試合は燃え上がるような晴天のもと激しい打ち合いを制することはできず、予定通り1回戦敗退。その後、温泉、ラーメンと堪能した。

発表は吉福先生が「成人急性喉頭蓋炎症例に対する気道確保の適応について」、私は「深頸部感染合併例に対する即時膿瘍扁摘の有用性」について発表した。吉福先生の会場全体を巻き込む情熱ある発表に感嘆してしまう私であった。

## 第74回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会

牧瀬 高穂

7月5日から2日間、東京ドームホテルで行われた第74回耳鼻咽喉科臨床学会・学術講演会に参加させていただきました。症例報告や臨床に関する発表が多数あり、臨床で役立つ知識を得ることができる大変有意義な学会でした。懇親会では、某男性？芸能人の登場で若い世代を中心に大変盛り上がりました。我々も便乗して盛り上がってみました。

(肖像権の問題から、画像は加工してあります。)



## 第19回マクロライド新作用研究

原田 みづえ

H24年7月6日、7日に、東京にて開催された第19回マクロライド新作用研究会に参加させていただきました。

私は、これまで、鼻茸由来あるいは下鼻甲介粘膜由来の培養線維芽細胞を用いた、慢性副鼻腔炎に対するマクロライドの効果についての研究を続けてきましたが、今回は、ヒト中耳粘膜上皮細胞を用いた、滲出性中耳炎に対するマクロライドの効果についての研究を行い、「ヒト中耳粘膜上皮における IL-8、VEGF 産生に対するマクロライドの効果」と題して、発表させていただきました。

ヒトの滲出性中耳炎の中耳貯留液中には、IL-8、IL-6、IL-1 $\beta$ 、VEGF などのサイトカインが含まれていることは報告されていましたが、それがどこから産生されているかははっきりしていませんでした。最近、ヒト中耳粘膜上皮細胞から IL-8 が産生されることが報告されるようになり、今回の研究では、LPS 刺激あるいは TNF $\alpha$  刺激により、実際にヒト中耳粘膜上皮細胞から IL-8 が産生されるのか、マクロライドによって産生が抑制されるのか検討しました。また同じように VEGF についても同様に検討しました。

結果、IL-8も VEGF も産生が亢進し、マクロライドによって抑制される傾向が認められました。

今後は、鼻粘膜上皮細胞と、中耳粘膜上皮細胞での違いがあるかどうか、さらに研究を続けていきたいと思えます。

## 第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第36回日本医用エアロゾル研究会

吉 福 孝 介

第42回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第36回日本医用エアロゾル研究会は海峡メッセ下関で開催され、当教室からは、黒野教授、大堀先生、自分吉福が参加させていただきました。

今回の学会のテーマは、感染症とエアロゾルの融合であった。大堀先生は「扁桃周囲膿瘍の臨床的検討」について発表され、自分は「喉頭蓋乱切術の有効性」について発表させていただきました。喉頭蓋乱切術は賛否両論あり、様々な質問をいただき非常に勉強になった。

夜の懇親会では、マジックショーが開催され非常に感銘を受け印象深い学会でありました。

## 第25回日本口腔・咽頭科学会総会・学術集会

川 畠 雅 樹

H24年9月13、14日の2日間、熊本市で開催されました。

私は、扁桃周囲空隙外にまで進展した扁桃周囲膿瘍に対する即時扁桃摘の効果について検討した結果を発表しました。当科で積極的に行ってきた即時扁桃摘の貴重なデータであり、更なる検討を追加してまとめる予定です。

本学会は、口腔・咽頭と広い領域を扱っており、多くの発表を興味深く拝聴しました。内視鏡下の唾石摘出術や経口腔的咽頭腫瘍切除などの低侵襲手術についての発表は特に興味深く、これからの発展に寄与できたらとの思いを強くしました。

## 第51回日本鼻科学会総会・学術集会

宮 下 圭 一

平成24年9月27日から9月29日に千葉大学の岡本先生主催で、第51回日本鼻科学会総会・学術集会が千葉県幕張で開催されました。大学からは黒野教授と吉福先生、宮下で参加し、鹿児島生協病院耳鼻咽喉科から積山先生が参加されました。吉福先生は、「ヒト鼻茸線維芽細胞の VEGF 産生に対するステロイドの影響」について、積山先生は「特発性鼻性髄液漏が原因と考えられた細菌性髄膜炎の1例」について、私宮下は、「鼻副鼻腔内反型乳頭腫再発症例に対する術式の検討」についてそれぞれ発表を行いました。アップデートセミナーでは、「鼻科学ベーシックリサーチの最先端」と題して、嗅上皮障害後の再生過程における嗅覚入力的重要性についてや、鼻副鼻腔炎における真菌抗原、黄色ブドウ球菌スーパー抗原による好酸球ならびに好中球炎症の検討などの最新のトピックについて知識を得ることができました。また内視鏡手術の最先端として、内視鏡下の頭蓋底手術の実際についてのセミナーがあったり、シンポジウムでは安全な内視鏡下鼻内手術を行うための副損傷（眼窩紙様板損傷、前篩骨動脈損傷、頭蓋底損傷）の回避と起こった際の対処について、学ぶことができ、これからの診療に生かせる内容でとても有意義な学会でした。

## 第22回日本耳科学会総会・学術総会

宮 下 圭 一

平成24年10月4日から10月5日に愛知県名古屋市の名古屋国際会議場で、名古屋市立大学の村上先生主催の第22回日本耳科学会総会・学術総会がありました。大学からは、黒野教授と原田先生と私宮下の3人で参加させて頂きました。原田先生は、「ヒト中耳粘膜上皮における IL-8産生とマクロライドの効果」について、私宮下は、「増悪・寛解を繰り返した悪性外耳道炎の一例」について発表しました。特別講演では、長崎大学名誉教授の岩堀先生が「聴覚器がたどってきた道」と題して、魚類から両生類、哺乳類にいたるまでの聴覚器（中耳～内耳）の発達進化の過程についての講演がありました。また会長の村上先生からは、会長講演として「私と顔面神経」というタイトルで、これまでの研究の流れや苦労したこと、海外留学のときの話など、興味深く拝聴致しました。おもしろい企画として、公募パネルディスカッションで「あなたの手術診断します！」と題して、事前に会員から募集した手術の動画を一つずつダイジェストで流して、耳科学の大御所の先生方（森満保先生や柳原尚明先生、高橋姿先生など）が点数をつけてく

れるという企画がありました。夜の会員懇親会では、名古屋港水族館を完全貸切で行われ、特別なイルカショーや巨大な水槽の前で、魚やシャチを間近に見ながらの食事ができたりと、スケールの違う学会を堪能することができました。

## 第60回日本化学療法学会西日本支部総会・ 第55回日本感染症学会中日本地方会学術集会・ 第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会

吉 福 孝 介

第82回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第55回日本感染症学会中日本地方会および第60回日本化学療法学会西日本支部会は、平成24年（2012年）11月5日（月）～7日（水）の3日間、アクロス福岡で開催されました。当教室からは、黒野教授、大堀先生、自分吉福が参加させていただいた。大堀先生は「扁桃周囲膿瘍の臨床的検討」について発表され、自分は「急性喉頭蓋炎に対する気道確保」について発表させていただいた。ともに耳鼻咽喉科のセッションでの発表であり、様々な質問が出て非常に勉強になった学会であった。

## 第64回日本気管食道科学会総会・学術講演会

原 田 みずえ

平成24年11月8日、9日に、東京で開催された第64回日本気管食道科学会総会・学術講演会に参加させていただきました。

私は、「血管浮腫症例の検討」と題して、過去5年間に当科で治療を行った血管浮腫症例4例をまとめ、気道病態と治療について検討し、発表させていただきました。内科系の先生方が血管浮腫の症例に遭遇することがあまりないそうで、けっこう、興味をもって聞いていただけたようでした。この学会は他科の先生の参加も多く、私もいろんなジャンルの発表が聞けて、勉強になりました。特に、ヒトパピローマウイルス（HPV）による子宮頸癌や中咽頭癌の話がきけて非常に勉強になりました。中咽頭癌でリンパ節転移のある患者様のリンパ節の形が、嚢胞状になっていて、抗癌剤治療や放射線治療をすると嚢胞状のリンパ節が著明に縮小し、消失までいたる例に何例か気付いていましたが、その時はまだHPVの型検索をしていないころでしたので、分からなかったのですが、HPV陽性の中咽頭癌のリンパ節転移は嚢胞状になるという話をきいて、私がなん

となく気付いていた患者様は HPV 陽性だったのではないかなと思いました。

会場はお台場のホテルでしたので、帰りはダイバーシティ東京にある、高さ18mの等身大ガンダムの足元を歩いて帰り、楽しい学会でした。

## 第31回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

永野 広海

第31回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会が2013年2月に川崎医科大学耳鼻咽喉科教室（原田教授）の主催で、岡山県倉敷市で開催されました。

我々の教室からは、黒野教授、大堀講師、私の3名で参加してまいりました。

黒野教授は、グラクソ国際交流基金授与式、教育講演の座長をされ、大堀先生はランチョンセミナーで『鼻噴霧ステロイド薬の初期療法への可能性』、私は一般演題で『PC経皮免疫による粘膜免疫応答の誘導』を発表しました。特に他大学の演題で、弘前大学の『好酸球性中耳炎モデル作成』と新日本製薬の『好酸球性副鼻腔炎に対する点鼻ステロイドの効果』に興味をもちました。両演題とも日常臨床での難治性疾患である、好酸球による病態を長期間かけてマウスを用いて検討しておりますが非常に手間のかかる作業の上発表され、頭の下がる思いで拝聴させていただきました。早速この分野にも取り組み当教室からも同領域で負けない発表ができればと考えました。

## 第25回日本喉頭科学会総会・学術講演会

川 畠 雅 樹

H25年3月7、8日の2日間、横浜市で開催されました。

私自身は音声治療に携わる機会がこれまでにあまりなく、最前線で音声治療を行っている先生方のお話を拝聴でき、大変有意義な時間を過ごせました。

また、夢のある基礎研究についての報告も多数ありました。自分自身も得意分野を確立し、医学の発展に少しでも寄与したいという思いを強くしました。

本会では、甲状軟骨形成術により声をとりのどしたベーチェ Chol さん、さだまさしさんの生の歌声も拝聴でき、楽しい時を過ごさせていただきました。

#### 4. 国際学会発表

### The 14<sup>th</sup> Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery

永野 広海

The 14<sup>th</sup> Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery が2012年4月に京都府立大学耳鼻咽喉科教室（久教授）の主催で、京都市で開催されました。

我々の教室からは、黒野教授、吉福講師、私の3名で参加してまいりました。

吉福先生は『Efficacy of combined treatment with a macrolide and an antihistamine for patients with nasal allergy complicated with chronic rhinosiitis』、私は『Transcutaneous immunization induces antigen specific mucosal and systemic immune responses in mice』を発表しました。

韓国からの先生方は非常に積極的に質問しており、負けてはいけなと感じました。また期間中、清水寺から見る桜は圧巻でした。



## 24<sup>th</sup> Congress of the European Rhinologic Society 31<sup>th</sup> International Symposium of Infection and Allergy of the Nose

大 堀 純一郎

本学会は、2012年6月17日から21日までフランスのToulouseで開催された。当科からは、黒野教授と私大堀が参加した。Toulouseはあまり聞きなれない地名であったが、エアバス社の工場がある土地で気候もよく、とてもいい町であった。

学会では、世界の鼻科学のトップがあちこちで講演をしており、非常に勉強になった。鼻内視鏡手術は、すでに鼻を通り越して、頭蓋底、斜台、脳幹を操作する時代になっていることを肌で感じる事ができた。このような手術を鹿児島で行うことはないのかもしれないが、鼻を超えた領域での手術操作のトレーニングは、副鼻腔手術の時にトラブルに見舞われた時の対処を容易にし、手術での怖さを軽減できるのではと思う。

学会の懇親会では、本場のフレンチカンカン（写真1）を鑑賞することができた。学会には多くの日本人も参加しており、特に大阪大学のメンバーとは食事もご一緒させていただき（写真2）、とても楽しく過ごすことができた。国際学会では日頃論文や教科書でしか見ることのできない高名な先生方の生の姿を見て、生の声で講演を聞くことができ、また質問することもできる。鹿児島大学からも今後もっと多くのメンバーで国際学会に参加し、世界の最先端をみて、また世界に発信していかなければと感じる次第であった。



写真1 懇親会でのフレンチカンカン



写真2 大阪大学の皆様と一緒に食事

## Seven Departments Joint Meeting of Otorhinolaryngology 2013

牧瀬 高穂

3月29日から3日間、島根県松江市で開催された Seven Departments Joint Meeting of Otorhinolaryngology 2013に参加させていただきました。日本、韓国、台湾の先生が集まった会で、以前当科に留学していたパク先生とも再会できました。今回は、大堀先生が中心となって現在症例を重ねている下咽頭癌の経口腔切除について発表しました。この会は参加者同士の懇親も一つの目的となっていて、多くの先生方と話す機会があり、いろいろな意見が聞ける大変有意義な会でした。

## 5. 関連病院便り

### 国立病院機構鹿児島医療センターだより

馬 越 瑞 夫

本年度もいろいろあった鹿児島医療センターの活動を簡単であります但報告いたします。

長らく松崎先生と西元先生の2人体制でありましたが、平成24年7月私馬越が鹿児島大学耳鼻咽喉科から当院へ転勤となり、3人体制へと変わりました。

また7月から9月までの3か月間、研修医の和田先生が耳鼻咽喉科で研修することとなり、非常に活気を呈する状態となりました。和田先生は外科志望であり、手術のセンスもすばらしく、勉強熱心でもあり、いろんな意味で弛んでいた私にとってよい刺激となりました。ぜひ将来は鹿児島で、耳鼻咽喉科医に、なっていたきたいと切望する次第です。

当院は平成24年7月から電子カルテへ完全移行となり、その責任者である松崎先生は多忙を極め、時折声をかけるのも躊躇うほど疲れているときもありました。現在は電子カルテの運用はスムーズに行われており、診療・治療に大いに寄与しています。

さて本年度の手術件数は別紙の通りで、昨年度より件数はやや増加していますが、再建手術の減少傾向は続いています。3人体制になっても手術件数が増加しない一因は、研修中の私を忙しい中ご指導いただいている影響もあるのかもしれませんが。そういった意味では大変感謝すると共に恐縮する次第です。

平成25年1月には鹿児島で開催された第23回頭頸部外科学会にて西元先生がシンポジストとして「高齢者耳鼻咽喉科手術の治療成績と術後合併症」について大トリで発表をされ、当科の治療について大いにアピールしております。

さて平成25年度当院は諸事情のため半年ほど放射線治療がしばらく行えない状態となります。他施設の先生方にご迷惑をおかけするかもしれませんが。その際は申し訳ございませんがよろしくお願いいたします。

最後に私事でございますが、黒野教授のご高配により大学病院から当地へ外勤となり、手術研修、緩和医療等の研鑽を積めました。いろいろとご迷惑をおかけしながらも、松崎部長は辛抱強くご指導を、西元科長は丁寧にご指導を賜りました。当院にて改めて、耳鼻咽喉科特に頭頸部外科の魅力を再認識した次第です。ただ松崎先生と2人で行う手術の緊張感は今でも変わりません。

今後当科がどのように変わってゆくのかはだれにも判りませんが、今後とも鹿児島医療センターをよろしくお願い申し上げます。

## 手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	： 85例
咽頭形成術・茎状突起過長症手術	： 3例
内視鏡下副鼻腔手術（乳頭腫，devi+subcon 同時手術も含む）	： 124例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲骨切除術単独	： 21例
その他の鼻副鼻腔手術	： 8例
鼓室形成術	： 11例
鼓膜形成術	： 5例
チューブ留置・アデノイド・先天性耳瘻孔など	： 26例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	： 2例
耳下腺腫瘍切除術	： 33例
顎下腺摘出術	： 22例
舌下腺摘出術	： 3例
甲状腺腫瘍，副甲状腺腫瘍摘出術	： 22例
頸部腫瘍・嚢胞摘出術	： 14例
副咽頭間隙腫瘍	： 0例
深頸部膿瘍	： 0例
口腔腫瘍摘出術など	： 12例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	： 94例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	： 59例
良性疾患合計	544例

悪性疾患

頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建あり）	： 18例
頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建なし）	： 10例
頸部郭清術単独	： 9例
甲状腺悪性腫瘍手術	： 17例
耳下腺悪性腫瘍手術	： 1例
顎下腺悪性腫瘍手術	： 3例
悪性疾患合計	58例

総症例数 602例

## 鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつもお世話になっております。

この関連病院便りも5回目となりました。

世間の流れは早いもので、新病院建設・院外処方・電子カルテ導入準備や外来体制の変更など様々な変貌がありました。その流れにも取り残されていた私でした。院外処方、今更何を言っているのかと思う人が多いと思いますが、私が赴任した当初に提案したら、患者が院内処方を希望しているのでできないと当時の副院長よりのお言葉があり、『ダメダこりゃ』と思ったことを覚えています。ようやく他の病院へ一歩でも近づけたのではないかと考えています。

新病院建設では各部門の方々が設計図とにらめっこして、『あ～でもない、こ～でもない』と議論しています。これだけ議論していれば大変働きやすく、患者にも思いやりのあり新病院になることと思っています。また建設地周囲にはタイヨーやセブンイレブン、娯楽施設が完備され、離院すればなかなか退屈しなさそうです。

電子カルテ導入準備も大変そうです。どんな電子カルテになることやら？

関与している部署では導入される電子カルテの状態がわからないため、準備がなかなかできない様です。また耳鼻咽喉科や眼科などは、また別のシステムも混在する様です。大変そうです。何事も新しい事をするには骨が折れるとのことと観念しています。

昨年、前触れもなく外来体制もいつの間にか変更され、その上、紹介状を・・・となっていました。

とある先生からはお叱りをうけ、申し訳ないと反省しました。

下記のように変更されています。

月曜日：小児難聴外来、手術日

火曜日：再診日

水曜日：小児難聴外来、初診日、手術日

木曜日：再診日

金曜日：初診日、手術日

また病院として紹介型病院へ移行したいようで、可能な限り紹介状を持参して頂ければと思っています。

いつも皆様には御迷惑をお掛けしていますが、何卒これからも宜しくお願い致します。以上御報告申し上げます。

## 藤元総合病院 便り

森園 健介

いつもお世話になっております。藤元総合病院に勤務しております森園です。今回の病院便りでは記載する事項が多数ありますので、いつものようにネタを捻り出す必要が無く非常に助かりました。

まずH24年度は病院全体で病院機能評価に取り組んでおりましたが、無事に審査体制区分：3（Ver6.0）との評価を得ることが出来たようです。審査直前の院内は天地がひっくり返らんばかりのドタバタを呈しておりましたが、無事その努力が実って特に事務方は一安心といったところでしょうか。

さらに新年度から様々な改変が行われました。まず上のタイトルを見ていただければわかるかと思いますが、4月1日から病院の名称が変わっております。今後は一般社団法人藤元メディカルシステム 藤元総合病院という名称となりますので、皆様どうか宜しくお願い致します。またそれに伴って気分一新、というわけなのか看護師や事務、技師やケースワーカーに至るまで職員の制服も新しいものに統一されました。新しい看護師の制服は少し丸みを帯びたデザインをあしらった可愛らしいものですが、外来の年配の看護師さん達にはやや不評なようです。

また4月1日から当院にもようやく電子カルテが導入されました。自分のお粗末な文字を他人にさらさなくても済むようになりましたが、まだ運用を始めたばかりで十分に操作に慣れておらず、いまだ日に何度もSEの方を呼び出しては説明を受けている状態です。しばらくは外来の待ち時間などへの影響も出るかと思いますが、徐々に改善して見やすいカルテを作成していきたいと考えております。

施設面では手術室が改装されて、1室増加となりました。常勤の麻酔科医も増員となっており、さらに多くの手術症例をこなす体制が整いました。まあ耳鼻科については外来との兼ね合いもあり今のところ現状維持の予定ですが・・・。

というわけで新体制を迎えた当院ですが、変わらず日々の診療に励みたいと思います。大学病院の先生方や近隣の開業医の先生方には御迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、引き続きどうか宜しくお願い致します。

## 鹿児島生協病院便り

積山幸祐

昨年10月に当院の電子カルテがバージョンアップされました。便利な機能も追加されましたが、当初は不具合が多くて仕事になりませんでした。御紹介頂いた患者さんの返書が遅れるなどご迷惑をお掛けし申し訳ございませんでした。昨年10月から積み積みもった退院サマリーの未記入分も、最近漸く完了しました。

以前の電カルがよかったなと思っていましたが、不具合もだいぶ解消され、新しい電子カルテに慣れてきたこともあるのか何とか普通に仕事ができるようになりました。マイナーチェンジされ、便利に感じることも増えてきました。パソコンのOSがバージョンアップされたときに感じる気持ちと似ています。

日常診療に追われ、新しい機能を使いこなすレベルまではなっていませんが、新しくなった電子カルテを利用し、地域医療に少しでも貢献できるように今年度も頑張りたいと思います。

2012年1月から12月までに手術室で施行した手術症例は188例で昨年の174例より増加しました(表)。手術はほとんど待機期間なくできます。紹介ください。

2012年 手術症例	人
扁桃摘出術(含アデノイド切除)	80
軟口蓋形成術	4
アデノイド切除術	6
鼓室形成術	4
鼓膜形成術	5
鼓膜チューブ留置術	8
外耳道腫瘍摘出術	1
耳介腫瘍摘出術	1
内視鏡下鼻内副鼻腔手術(含 devl.,sub.con.)	25
POMC	9
鼻中隔矯正術+粘膜下鼻甲介骨切除術	7
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	5
耳下腺腫瘍手術	2
顎下腺摘出術	2
喉頭蓋嚢胞摘出術	1
喉頭腫瘍摘出術	4
声帯ポリープ摘出術	7
声帯嚢胞摘出術	1
がま腫摘出術	1
術後出血止血術	2

中咽頭腫瘍摘出術	1
唾石摘出術（口内法）	2
甲状腺切除術	1
口唇粘液嚢胞摘出術	1
先天性耳瘻孔摘出術	4
頸部腫瘍摘出術	2
鼻出血止血術	1
皮下腫瘍摘出術	1
計	188

## 天辰病院便り

谷本 洋一郎

天辰病院に赴任して早いもので5年が経過しようとしています。昨年から今年にかけては、大きな事故もなく、外来患者も手術件数も少しずつ増加し、いろんな開業の先生からも入院の御紹介を頂けるようになってきました。外来スタッフ、手術スタッフも固定し、皆さん慣れてきて仕事もスムーズに進めることができるようになってきました。本年はインフルエンザにかかることもなく（今のところ）、皆さんに迷惑をかけることもなく診察できています。また当院も昨年夏頃にフィルムレスになり、フィルムが出来上がるまで患者さんをお待たせしたり、大学等紹介するときに重いフィルムを持たせたりすることもなくなりました。今後も“大学に紹介するほど緊急性はないけど、自宅に帰すのはちょっと心配”な患者さん等いらっしゃいましたら、当院のベッドを御利用いただけるようお願いいたします。

## XIII. 関連病院

(平成25年4月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	892-8580	鹿児島市加治屋町20-17 TEL:099-224-2101 FAX:099-223-3190	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火 (8:30~16:30)	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	土の午後
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	金 (9:00~17:00)	
加治木温泉病院	899-5241	始良郡加治木町木田字 松原添4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木 (10:00~16:30)	
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
阿久根市民病院	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2, 4土曜日 (9:00~15:00)	
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年 7月1日 ~61年12月25日 平成元年 6月26日 ~ 8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年 9月6日 ~12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年 1月22日 ~ 2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年 5月7日 ~ 7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年 6月25日 ~63年 6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 濟霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年 8月1日 ~10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年 3月9日 ~ 3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年 4月5日 ~平成元年 6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年 12 月 7 日 ～ 3 年 12 月 21 日 平成 5 年 10 月 12 日 ～ 10 月 17 日	Department of Clinical Sciences (ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジャイ病院)	平成 3 年 4 月 10 日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月 17 日 ～ 5 年 5 月 16 日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月 26 日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月 28 日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月 18 日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成 6 年 3 月 11 日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月 19 日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振海	平成 5 年 1 月 25 日 ～ 平成 9 年 3 月 31 日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成 6 年 4 月 4 日 ～ 7 年 6 月 13 日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成 6 年 10 月 3 日 ～ 11 年 3 月 31 日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成 8 年 1 月 25 日 ～ 8 年 12 月 30 日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年 3 月 23 日～H13. 9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年 4 月 2 日～H17. 3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月 1 日 ～H21年 2 月 13 日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏名	最終職別	在局期間
西 宜 行	研 修 生	59. 4-59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4-60. 6 61. 1-61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4-62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4-63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63.10-63.12
三 角 芳 文	研 修 生	63.10-63.12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H2. 7-H2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H2.10-H2.12
宮 原 広 典	研 修 生	H3. 1-H3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H5. 7-H5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H5.10-H5.12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H5.10-H5.12
的 場 康 平	研 修 生	H7. 1-H7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H7.10-H7.12
泊 口 哲 也	研 修 生	H8. 1-H8. 3
鳥 名 昭 彦	研 修 生	H8. 7-H8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H8.10-H8.12 H9. 4-H9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H9. 1-H9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10.4-H10.6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11.1-H11.3
横 山 孝 二	研 修 生	H11.4-H11.6

氏 名	最終職別	在 局 期 間
田 中 裕 之	研 修 生	H11.7-H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13.6-H13.12
森 田 義 紀	研 修 生	H15.1-H15. 3

## 鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

### (総則)

- 第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。
- 第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

### (目的ならびに事業)

- 第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 同門会総会の開催
  2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
  3. 記念事業の開催
  4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### (会則)

- 第5条 本会は会員を次のとおりとする。  
教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。
- 第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）
- 第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。
- 第8条 会員は希望により退会することができる。
- 第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

### (役員)

- 第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。  
なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。
- 第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。
- 第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。  
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。  
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。  
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。  
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。  
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

## ●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

### 編集後記

昨年12月に民主党から自民党に政権へ代わり、アベノミクスの効果か、現在株価も右肩上がりに上昇傾向にあり、デフレであえいでいた日本経済も、少しずつ息を吹き返しつつあります。当教室でも、しばらく新入局員がいないという不況の時期を経て、昨年の井内寛之先生に続いて、今年は地村友宏先生を新入局員として迎えることができました。いい波が少しずつ当教室にもきているようで、この波に乗ってさらに来年もとついつい期待が膨らみます。そのためには、我々も努力して変わる必要があります、「3本の矢」である「財政出動≒学生を飲み会に誘う」、「金融緩和≒耳鼻科への興味をさらに引き出す」、「成長戦略≒魅力ある耳鼻科医師育成プランを示す」を推し進めていく必要があると思います。そうなれば学生にとっても、我々にとってもウィンウインの関係になり、耳鼻咽喉科の未来は明るいのではないかと思います。楽観的かもしれませんが、これからも医局の先生方および同門会そして地方部会の先生方と一緒に鹿児島の医療を盛り上げていければと思っています。

平成25年5月吉日

編集長（医局長） 宮下 圭一  
編集委員 井内 寛之  
大夫堀 昌子

### さくらじま 第27号

平成25年7月18日 印刷

平成25年7月23日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室  
電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社  
電話 (099) 268-8211